一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書XII

狐 宮 遺 跡 III

２０１６

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書XII

狐宮（きつのみや）遺跡 III

2016

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

上越三和道路は、上越市寺と三和区を結ぶ地域高規格道路（自動車専用道路）で、上越市から南魚沼市六日町に至る延長約 60km の一般国道 253 号上越魚沼地域振興快速道路の一部です。この地域高規格道路は、地域の活性化や他地域との交流を促進することを目的として建設される道路です。上越地域においては、高規格幹線道路である北陸自動車道・上信越自動車道とあわせて、信頼性の高い循環型広域ネットワークを形成することを目指し、これによって、沿線地域の産業・経済・文化の交流発展が促進されるものと期待されています。

本書は、この上越三和道路建設に先立ち、2014 年度（平成 26）に発掘調査した弧宮遺跡の調査報告書です。同遺跡の調査は 2005 年（平成 17）、2009 年（平成 21）にも実施され、これについてはすでに報告書が刊行されています。

過去 2 回の調査では、縄文時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺物が出土し、古代の集落を中心とする遺跡であることが分かっています。今回の調査でも 9 世紀中葉の遺構・遺物が検出され、自然堤防上に形成された農業を基盤とする当時の集落の様子が明らかになりました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御援助を賜った上越市教育委員会、並びに門田新田町内会をはじめとする地元の方々、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所に対し厚くお礼申し上げます。

2016 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長　高　井　盛　雄

例　　言

1　本報告書は新潟県上越市門田字江向 20-5 ほかに所在する狐宮遺跡の発掘調査記録である。

2　2014 年度の調査成果をまとめたものが本書「狐宮遺跡Ⅲ」で、狐宮遺跡の 3 冊目の発掘調査報告書である。

3　調査は一般国道 253 号上越三和道路建設事業に伴い国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委と略す）が受託したもので、調査主体である県教委は公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団と略す）に調査を依頼した。

4　埋文事業団は、掘削作業等を株式会社古田組に委託して、2014 年度に発掘調査を実施した。

5　出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が保管している。

6　調査成果の一部は、「埋文事業団年報」で公表しているが本報告書をもって正式な報告とする。

7　遺物の註記は、狐宮遺跡の略記号「14 キツノ」とし、出土地点や層位等を併記した。

8　本書で示す方位は、すべて真北である。

9　掲載遺物の番号は種別に関わりなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。

10　引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

11　遺構・遺物図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

12　本書の執筆・編集は、飯坂盛泰（埋文事業団　調査課班長）が担当した。

13　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

上越市教育委員会　　門田新田町内会

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査の経過 …… 2

A　試掘・確認調査 …… 2

B　本発掘調査 …… 3

3　調査・整理体制 …… 4

4　整 理 作 業 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 5

1　地理的環境 …… 5

2　歴史的環境 …… 7

第Ⅲ章　調査の概要 …… 9

1　グリッドの設定 …… 9

2　基 本 層 序 …… 10

第Ⅳ章　遺　　構 …… 11

1　概　　要 …… 11

2　遺構の記述と表記方法 …… 11

3　遺 構 各 説 …… 12

A　掘立柱建物 …… 12

B　井　　戸 …… 12

C　土坑・ピット・性格不明遺構 …… 12

D　溝 …… 14

第Ⅴ章　遺　　物 …… 15

1　概　　要 …… 15

2　土　　器 …… 15

3　木 製 品 …… 16

第Ⅵ章　ま　と　め …… 17

1　2014 年度の調査成果について …… 17

2　総　　括 …… 17

《引用・参考文献》…… 18
《観　察　表》…… 19

挿図目次

第 1 図　上越三和道路の路線と調査遺跡の位置 …… 1
第 2 図　試掘・確認調査トレンチ位置図 …… 2
第 3 図　高田平野の地形分類図 …… 6
第 4 図　上越三和道路関係の遺跡と周辺の古代遺跡分布図 …… 8
第 5 図　グリッド設定図 …… 9
第 6 図　基本層序 …… 10
第 7 図　遺構の平面形態と断面形態の分類 …… 11
第 8 図　遺構埋土の堆積状況の分類 …… 11

表　目　次

第 1 表　周辺の遺跡一覧表 …… 7

図版目次

【図面図版】
図版 1　狐宮遺跡の位置と周辺の地形
図版 2　狐宮遺跡遺構全体図
図版 3　2014 年度調査区遺構全体図
図版 4　遺構分割図（1）
図版 5　遺構分割図（2）
図版 6　遺構分割図（3）
図版 7　遺構分割図（4）
図版 8　遺構分割図（5）
図版 9　遺構分割図（6）
図版 10　遺構断面図
図版 11　遺構個別図（1）掘立柱建物
図版 12　遺構個別図（2）井戸・土坑
図版 13　遺構個別図（3）土坑・ピットほか
図版 14　遺物実測図（1）
図版 15　遺物実測図（2）

【写真図版】
図版 16　調査区全景
図版 17　遺構検出状況・SB17・基本層序・須恵器小型短頸壺出土状況・出土土器
図版 18　SB17・SB7
図版 19　SB7・SB18
図版 20　SB18・SE2142・SE2147・SE2246
図版 21　SK2110・SK2111・SK2118・SK2140・SK2141・SK2145
図版 22　SK2148・SK2152・SK2153・SK2154・SK2156・SK2211・SK2213・SK2230
図版 23　SK2236・P2119・SX2150・SD2208・SD2109・SD2135
図版 24　土器（1）
図版 25　土器（2）・木製品

第Ⅰ章　序　　説

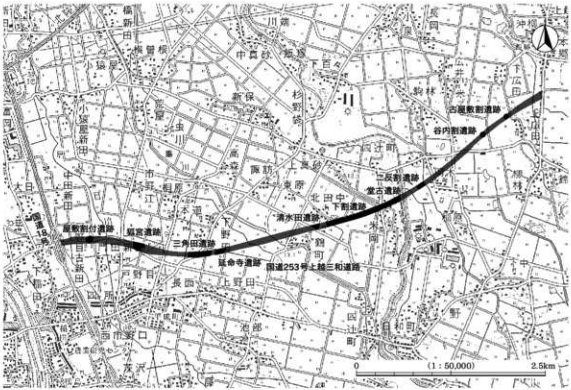
1　調査に至る経緯

上越三和道路は、上越魚沼地域振興快速道路（一般国道 253 号）のうち、上越市寺から三和区本郷までの延長約 7.4km の区間である。上越魚沼地域振興快速道路は 1998 年 12 月に整備区間に指定され、上越市と南魚沼市を結ぶ延長約 60km の地域高規格道路として計画された。完成すれば、上越地方と首都圏を結ぶ最短経路として広域的な交流が促進されることが期待される。

国土交通省は、上越三和道路の着工に向けて県教委に計画予定地内における埋蔵文化財の分布調査を依頼した。県教委の委託を受けた埋文事業団は、2001 年（平成 13）4 月に分布調査を実施したところ、範囲内の 24 か所から主に古代・中世の遺物が採集されたため、ほぼ全域にわたり試掘調査による遺跡の存在確認が必要であると県教委に報告した。

狐宮遺跡の試掘・確認調査は、県教委の委託を受けて埋文事業団が、2004・2005・2008 年に実施した。調査の結果、古代、中世の遺跡で、本発掘調査必要面積は 12,775m² となった。これまで、2005 年、2009 年に本発掘調査を実施している。

2014 年度調査として、「平成 26 年 3 月 19 日付け」で国土交通省から県教委に対し県道上越・安塚・柏崎線下で調査が残っていた 1,700m² の本発掘調査の依頼があり、県教委は、「平成 26 年 3 月 31 日付け　教文第 1580 号の 2」で埋文事業団に調査の実施を依頼した。



第 1 図　上越三和道路の路線と調査遺跡の位置

（国土地理院「高田東部」1：50,000 原図 2007 年発行に加筆）

2 調査の経過

A 試掘・確認調査（第２図）

用地取得の関係から３か年にわたり行われた。

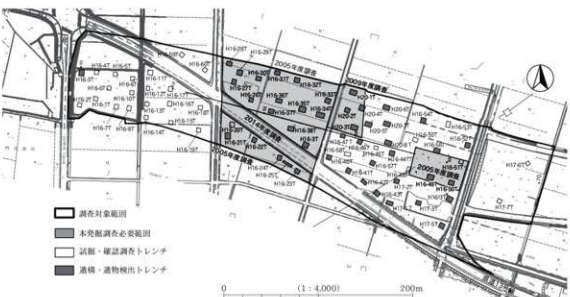
2004 年度

県教委の委託を受け、５月 17 日から６月 11 日に埋文事業団が実施した。調査対象範囲の 25,000m² に任意のトレンチを 60 か所設置した。トレンチは重機及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況などを観察・記録した。調査の結果、現地表約 20cm で多くのトレンチ（H16-21 ～ 44・46・47・49・50・52・54・56・57T）から古代の遺物や遺構を検出した。また、H16-22・23・31・34 トレンチでは、古代の遺物包含層よりも下層から古墳時代の遺物が出土した。以上の結果から新発見の遺跡として狐宮遺跡と呼称し、20 ～ 39 トレンチ周辺の 9,450m² を本調査必要範囲とした。周辺の三角田遺跡、延命寺遺跡の状況と類似することから下層に遺跡が存在する可能性があり、上層の調査終了後に下層の遺構・遺物の有無を確認することとした。また、40 ～ 56 トレンチ周辺は未買収地があり、その範囲の確認調査が済むまで判断保留とした。

2005 年度

県教委の委託を受け、４月６日～８日に埋文事業団が実施した。

前年度未買収地で試掘・確認調査が実施できなかった範囲 3,640m² を対象に実施した。７か所の試掘坑についてバックホーと人力により掘削・精査を行った。その結果、H17 1 ～５トレンチで古代の遺物が出土したが量は少なく、遺構が検出されなかったことから対象地の本発掘調査の必要はないと判断した。



第２図 試掘・確認調査トレンチ位置図

また、前年度判断保留としていた 48 ～ 56 トレンチの区域は、今回と同様な状況と想定し、本発掘調査の必要はないと判断した。49・50 トレンチから相当数遺物が出土したことから、その周辺 1,750m² についてトレンチ調査などの再調査が必要と判断した。

2008 年度

県教委の委託を受け、8 月 18・19 日に埋文事業団が実施した。調査対象は、法線センター杭 No58 ～ 63 間の北側の範囲 3,586m² で、8 か所のトレンチを設定した。調査の結果、すべてのトレンチから遺物が出土し、H20-2・3 トレンチで遺構を検出した。この結果、H20-2・3 トレンチ周辺の 1,775m² を本発掘調査必要範囲とした。

B　本 発 掘 調 査

2005 年度

4 月 11 日～ 11 月 18 日まで 11,200m² を調査対象に実施した。調査の結果、9 世紀前葉～後葉の平安時代の集落が見つかり、掘立柱建物、竪穴建物、井戸、畑作溝などを検出した。このほか、古墳時代の陥穴や縄文時代草創期の所産と考えられる尖頭器を検出した（第Ⅵ章 2）。

2009 年度

2005 年度に未買収地であったため調査ができなかった範囲 1,589m² について、4 月 22 日～ 6 月 12 日まで実施した。調査の結果、集落の北東縁辺にある掘立柱建物、井戸、土坑などを検出した。

2014 年度

県道 13 号線部分の 1,700m² を調査対象に 9 月 16 日～ 11 月 21 日まで実施した。県道の迂回工事が完了するのを待って 9 月 16 日から現場準備に入った。9 月 19 日から表土掘削を始めた。重機で県道下に敷かれていた厚さ 1m 程の砕石の撤去と、調査区周辺に開渠を設置しながら遺構検出面まで掘り下げた。また、調査区を横断する 6 列グリッド付近にある水路（ヒューム管）は撤去せず残した。10 月 9 日から作業員を投入、開渠の掘削・整形を行った後、遺構検出を行った。掘削はホソ、竹べらなどを用い、精査はジョレン、両刃カマなどで行った。遺物の取り上げは 2m 毎の小グリッドを基本とし、遺構出土の遺物はこれに遺構名を付した。遺構番号は、2005・2009 年度調査からの継続で番号を付した。遺構は掘立柱建物の柱穴、井戸、土坑、溝、畑作溝などを検出し、11 月 12 日にラジコンヘリコプターによる航空写真撮影（以下、空撮）を行い、同日に県教委の調査終了確認を受けた。11 月 17・18 日に重機で下層のトレンチ調査を行ったが、古墳時代の土器の小破片 3 点しか出土しなかった。11 月 20 日に国交省と現地引き渡しの確認を行い、21 日に調査を終了した。最終的な調査面積は、調査区中央、両端を横断する水路（ヒューム管）と北側にある道路側溝を残して調査したため実質 1,640m² である。下層の調査面積を含めると延べ 1,810m² となる。

3 調査・整理体制

試掘・確認調査の体制は『狐宮遺跡』［飯坂ほか2007］、『狐宮遺跡Ⅱ・下別遺跡Ⅳ』［高橋ほか2011］の報告書に掲載している。狐宮遺跡Ⅲの本発掘調査と整理作業は、以下のような期日と体制で行った。

調査期間	2014年9月16日～11月21日
整理期間	2014年11月25日～2015年3月31日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　高井 盛雄）
調　　査	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	土肥　茂（専務理事　事務局長）
管　　理	熊倉宏二（総務課長）
庶　　務	仲川国博（ 同 班長）
調査総括	高橋　保（調査課長）
指　　導	田海義正（ 同 課長代理）
調査担当	飯坂盛泰（ 同 班長）
支　　援	株式会社 古田組　　現場代理人　竹内一喜　　調査員　渡邊大士

4 整 理 作 業

整理作業は、現地調査と並行しながら進めた。遺物の水洗、注記と遺構の記録類の一部は現地事務所で行い、現地調査終了後に、報告書作成に関わる遺構・遺物図版作成、原稿執筆などを埋文事業団で実施した。2015年度は、鈴木俊成（調査課長）の監理により編集作業を進め、印刷・刊行した。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地 理 的 環 境

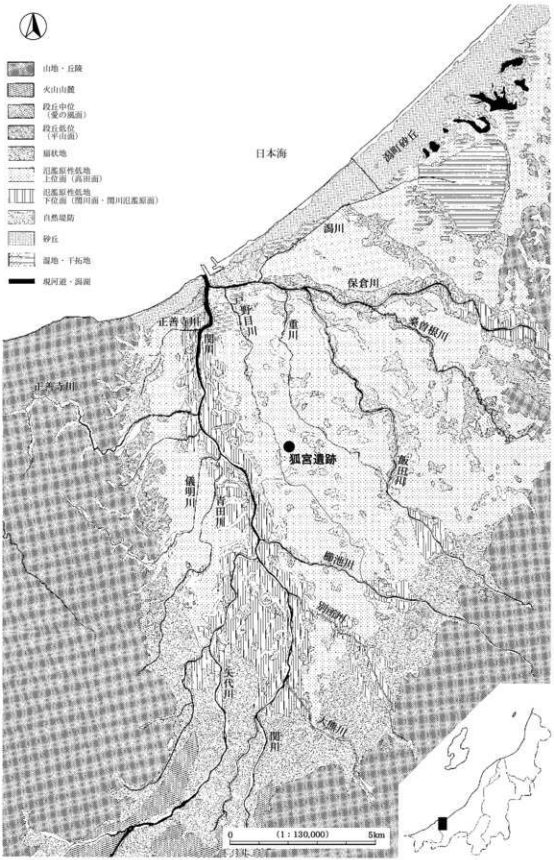
『狐宮遺跡』「2 遺跡周辺の地理的環境」［桐原 2007］から一部修正・加筆して引用する。

狐宮遺跡が立地する高田平野は、新潟県南西部に位置する沖積平野である。北辺は、長さ約 20km にわたり潟町砂丘が発達し、海岸と平野とを区画している。東辺から南東辺には、東頸城丘陵が広がり、柏崎平野・越後平野・十日町盆地・長野盆地と高田平野とを隔てている。東頸城丘陵北端には米山を主峰とする米山山地、南東部には信越国境をなす関田山脈、南端には斑尾山がそびえている。西辺には西頸城丘陵が広がっている。この丘陵は、海岸に沿って西方に延び、糸魚川市の平野部と高田平野とを隔てている。西頸城丘陵南方には西頸城山地が連なり、その北端には青田難波山、南端には主峰の火打山がそびえている。さらに、その南には、富士火山帯の北端をなす焼山及び妙高山の両火山がそびえ、平野南端には、妙高山の岩屑流・火砕流により形成された丘陵と接している。

平野には、これら周辺の山地・山脈、丘陵から多数の河川が流入している。平野最大の河川である関川は、火打山・妙高山及び長野県との境をなす高妻山・乙妻山の地域を水源とし、平野を西偏しながら北流し、日本海に注いでいる。途中、西頸城山地から矢代川・青田川などが、西頸城丘陵から儀明川・正善寺川などが関川に合流する。また、東頸城丘陵や関田山脈からは、大熊川・別所川・柳池川・飯田川・保倉川などの中小河川が関川に合流する。平野の北東部では、東頸城丘陵・米山山地を水源とする吉川・大出口川・柿崎川などが平野に流れ出し、直接日本海に注いでいる。北東部から南西部にかけて、関川や矢代川をはじめ、大熊川・別所川・柳池川・飯田川などにより形成された扇状地が発達している。

高田平野の地形面は階段状であり、最も低い関川氾濫原面（関川面）と最も高い高田面の 2 段が沖積段丘を形成している。狐宮遺跡がある高田面は主に礫・砂・シルトの互層からなる高田層によって形成された堆積面であり、その分布は平野の大部分を占める。平野部の中央部において高田面の表層地質やその珪藻遺骸について検討した結果、この地域は以前、沼沢地のような環境が広がっていたことが明らかにされている［高田平原団体研究グループ 1962］。一方、関川面は、関川とその支流に沿って分布する氾濫原堆積物である関川層からなっている。平野に分布する遺跡の時代を検討した結果、高田面は古墳時代初頭から段丘化し始め、数回に及ぶ洪水性堆積物によって覆われながら平安時代には完全に段丘化したものと考えられている［高田平野団体研究グループ 1981、岡本 1999］。しかしながら、2005 年度の本遺跡の発掘調査で縄文時代草創期の石器や縄文時代後・晩期の土器が出土したことにより、少なくとも縄文時代後半期には人々が居住し得る環境が整っていた可能性があり、高田面の形成年代について検討が必要である。

飯田川と関川との間には、小規模な自然堤防が点在し、その分布は一定の方向性をもって配列している。その配列に従って灌漑水路が通り、戸野目川・重川のような小河川が流れているので、かつてはここに丘陵地から流れ出した川が流れているのではないかと推察されている［高野 2002］。このような自然堤防上の微高地に、現集落が成立している。



第３図　高田平野の地形分類図

（北陸地方建設局北陸技術事務所 1981；新潟県農地部農村総合整備課 1980・1981 を改変加筆）

2 歴史的環境

狐宮遺跡が所在する高田平野は、越国を分割した当初、越中国に含まれていた。大宝二年（702）に越中国から頸城郡・古志郡・魚沼郡・蒲原郡が分離し、越後国に編入される［米沢 1980］。高田平野周辺は、頸城郡に属し、越後国編入後は国府が置かれる。越後国府は、高田平野中央部、関川、柳池川、矢代川が合流する付近にある今池遺跡周辺が推定地として有力視されている［坂井ほか 1984］。10 世紀に成立したとされる『倭名類聚抄』によれば、頸城郡には、沼川（ぬなかわ）・都宇（つう）・栗原・荒木・板倉・高津・物部・五十公（いそき）・夷守（ひなもり）・佐味（さみ）の 10 郷が記されている。地名、式内社、遺跡分布などの検討から、狐宮遺跡のある戸野目川周辺は、関川下流域、重川下流域、飯田川下流域とともに都宇郷に推定されている［相沢 2004］。以下、都宇郷に所在する古代の集落遺跡について概観する。

古代の遺跡の多くは、飯田川、重川、戸野目川など中小河川が形成した自然堤防上に多く立地する。

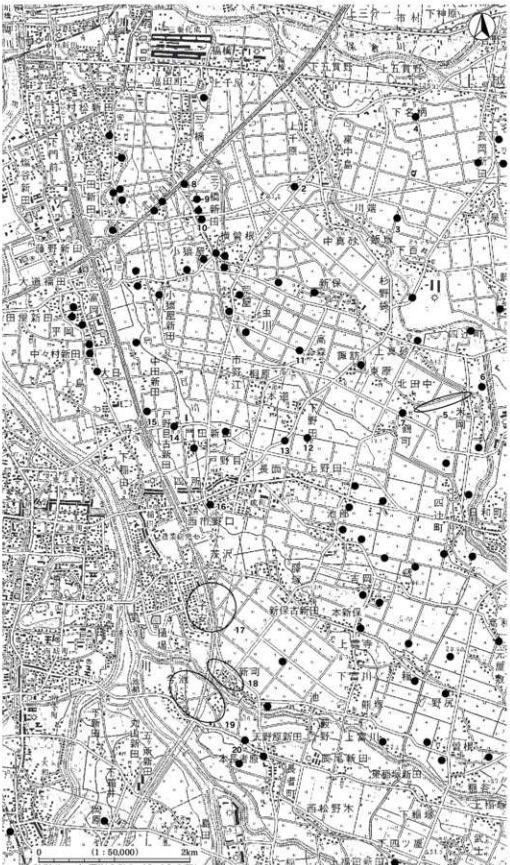
飯田川流域の遺跡は、古墳時代前期に形成し、断続して再び 7 世紀中葉、あるいは 8 世紀前葉から中葉に集落が営まれる遺跡が多い。津倉田遺跡（2）・前田遺跡（3）・下名柄古屋敷遺跡（4）・下朝遺跡（5）などである。津倉田遺跡は、7 世紀中葉～ 8 世紀初頭の竪穴住居と掘立柱建物で集落が構成される。周辺地域と比べて律令期初期に成立した遺跡が多く、平野開発の先進的地域であったといえる。

重川流域の自然堤防上にある遺跡は、宮野遺跡（8）・岡原遺跡（9）・上押出遺跡（10）・保坂遺跡（11）・延命寺遺跡（12）・三角田遺跡（13）などがある。延命寺遺跡は、7 世紀前葉に開発された集落で、7 世紀後半に一時的に廃絶するが 8 世紀前葉～中葉に官衙的な機能を有した集落として再び営まれる［山崎 2008］。在地の有力者層や集落が地方行政の末端に取り込まれる過程を反映した遺跡である。三角田遺跡は、8 世紀初頭と 8 世紀後半に再び大規模な農耕作域を持つ集落が営まれた［沢田ほか 2006］。

戸野目川流域の自然堤防上にある遺跡は、本遺跡のほかに越前遺跡（15）がある。新田開発や初期荘園の成立を背景に 9 世紀代に新たに営まれる集落が多い。越前遺跡は 8 世紀末～ 9 世紀後半の建物群が区画の中に計画的に配置された集落で、多量の墨書土器や祭祀具・施釉陶器が出土した。公的機関や富裕層が関わった遺跡であると考えられている［笹澤 2003b］。

No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代	No.	遺跡名	時　代
1	狐宮	縄文・古墳・平安	8	宮野	平安	15	越前	平安・中世
2	津倉田	古墳・飛鳥・奈良	9	岡原	奈良	16	中島廻り	弥生・古墳・奈良
3	前田	古墳・古代	10	上押出	平安	17	子安	弥生～中世
4	下名柄古屋敷	古墳・飛鳥～平安	11	保坂	平安	18	下新町	奈良・平安
5	下朝	古墳・古代・中世	12	延命寺	飛鳥・奈良	19	今池	奈良・平安
6	堂古	古代・中世	13	三角田	奈良・平安	20	本長者原廃寺	古代
7	清水田	中世	14	屋敷別付	古代			

第 1 表　周辺の遺跡一覧表



第４図　上越三和道路関係の遺跡と周辺の古代遺跡分布図

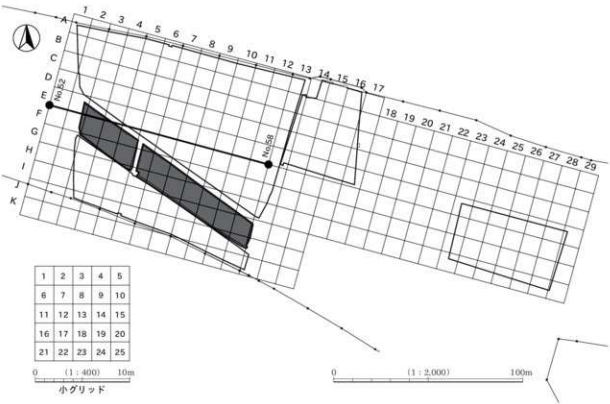
（国土地理院「高田東部・柿崎」1：50,000 原図　2007 年発行）

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

1　グリッドの設定

グリッドは、上越三和道路の法線に沿うよう、道路建設予定地内センター杭２点を基準としている。センター杭 STA-No52（1F 杭：世界測地系 X=125308.9807、Y=-19554.9063）と STA-No58（13F 杭：世界測地系 X=125277.7351、Y=-19439.0515）を結んだ線を横軸とし、これに直交して起点を通る線を縦軸とする主軸を設定した。グリッド基準線の方位は、真北から 15 度 16 分東偏している。

調査では大小２種類のグリッドを使用した。大グリッドは 10m 間隔で、横軸では算用数字を使用して遺跡西端から東に向かって「1、2、3、4…」列、縦軸では北端から南に向かって「A、B、C、D…」列とし、大グリッド名は北西隅の基準線の交点により「1A、1B、1C…」と呼称した。小グリッドは大グリッドを 2m 方眼に 25 分割した。小グリッドは北西隅を１とし東に数え、南東隅を 25 として算用数字順で表した。グリッド表記は「7B1」のように呼称した。

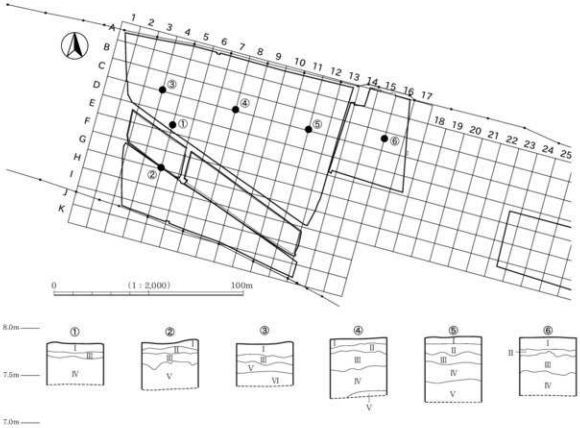


第５図　グリッド設定図

2 基 本 層 序（第６図）

今回の調査区域は、2005 年度調査区の間に位置し、基本層序は開渠壁面で確認したところ先の調査と同様であった。狐宮遺跡は南北にのびる微高地上に立地する。基本土層のⅤ層とした黒色土は、平安時代の遺構面より下層であるが、堆積がグリッド 10 列付近の東側から急激に落ちこむ。その落ち込みを洪水堆積物であるⅣ層が埋め、古代の遺構が営まれた時には、東に緩く傾斜するが、ほぼ平坦となる。平安時代の遺構検出面は基本的にⅣ層上面であるが、グリッド６列以西ではⅣ層の堆積が薄い。遺構検出作業は、Ⅴ層上面まで下げて行った。Ⅴ層は、2005 年度の調査で縄文時代後・晩期の遺物が出土し、土壌の放射性炭素年代測定では遺物の年代時期に近い約 3,000 年前の形成という結果を得ている。

Ⅰ層：暗褐色粘土（7.5YR3/3）　粘性やや弱い。しまり強い（水田耕作土）。
Ⅱ層：褐灰色粘土（10YR5/1）　粘性やや強い。しまりふつう。
Ⅲ層：灰褐色粘土（7.5YR4/2）　粘性やや強い。しまりふつう（平安時代の遺物包含層）。
Ⅳ層：明褐灰色シルト（7.5YR7/1）粘性やや強い。しまりふつう（平安時代の遺構検出面）。
Ⅴ層：黒色粘土（7.5YR2/1）　粘性強い。しまり強い（縄文時代の遺物出土）。
Ⅵ層：灰オリーブシルト（5Y5/2）粘性弱い。しまり弱い。



第６図　基本層序

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要

遺構は、掘立柱建物３棟、井戸３基、土坑 18 基、ピット 41 基、溝 53 条、性格不明遺構２基を検出した。遺構の時期は、SK2145、SD2109 から出土した土器などから９世紀中葉の平安時代である。遺構はグリッド４～10 列の間に多く、南北方向に分布している。

2　遺構の記述と表記方法

遺構の説明は、本文、観察表、図面図版、写真図版を用いる。

遺構名　遺構の呼称は、掘立柱建物（SB）、井戸（SE）、土坑（SK）、ピット（P）、溝（SD）、性格不明遺構（SX）である。番号は、2005 年、2009 年度の調査からの続きの番号とした。掘立柱建物が 17 から、それ以外の遺構は 2100 から番号を付けた。2005 年度調査で発見した遺構の延長と判断できたものは、新たに番号を付さず、先の調査で付した番号で呼称した（SB7、SD240）。また、作業の過程で生じた欠番がある。

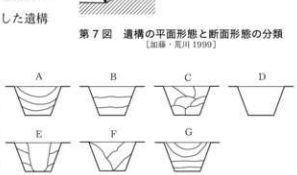
観察表　遺構の形状・計測値は、遺構検出面での数値である。掘立柱建物は、柱間の多い方を桁行、少ない方を梁行とした。ただし、柱間が同じ場合は長辺の方を桁行とし、正方形の場合は区別していない。建物軸は、南北方向に対する傾きを示す。また、遺構の平面及び断面の形状分類等は［加藤・荒川 1999］、覆土堆積状況の分類は［荒川ほか 2004］に準拠した（第７・８図）。遺構の切り合い関係は、新＞旧と示した。

図面図版　遺構全体図と分割図、主要な遺構の個別図で構成している。土層断面図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修の 2004 年版『新版標準土色帖』を使用した。

遺構写真　調査の過程に応じた検出状況、断面、遺物出土状況、完掘状況写真を撮影しているが、本文で報告した遺構を中心に掲載した。

第７図　遺構の平面形態と断面形態の分類
［加藤・荒川 1999］

A　レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B　水平	複数層が水平に堆積する。
C　ブロック状	ブロック状に堆積する。
D　単層	覆土が単一層のもの。
E　柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F　斜位	斜めに堆積するもの。
G　水平・レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。



第８図　遺構埋土の堆積状況の分類［荒川ほか 2004 を一部改変］

3 遺 構 各 説

A 掘 立 柱 建 物

SB17（図版 5・11・17・18）

4・5F グリッドで検出した建物の一部である。2005 年度調査区に一連の柱穴が検出されてないことから、道路側溝を残し調査できなかった範囲で柱穴列は終わっている可能性が高い。おそらく 2 間×2 間程度の建物であると想定する。建物軸は N-14°-E である。南側で検出した SD2251 は浅い溝で、建物の南縁に沿っている。3 基の柱穴、SD2251 とも遺物が皆無で、建物の時期の特定に至らなかった。

SB7（図版 6・11・18・19）

7H グリッドで検出した 2 基の柱穴が、2005 年度調査で検出した SB7 に結びついた。南北棟の桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物となる。残念ながら北西隅と東側桁行の中間の柱穴は、排水のため設置した開渠で壊してしまった。建物軸は N-5°-E である。今回検出した 2 基の柱穴とも遺物の出土はないが、2005 年度検出の P730 から 9 世紀代の須恵器把手付瓶が出土している。

SB18（図版 8・11・19・20）

9・10H グリッドに位置する桁行 2 間、梁行 2 間の東西棟の側柱建物である。建物軸は N-54°-E である。P2238、P2257 の柱穴には、柱根が残存していた。この建物だけ SB7 ～ 10 など周辺の建物と軸方向が異なるが、SB18 の南側、2005 年度調査区の 9I・J グリッドで検出した畑作溝（報告では小溝 7 群）と軸方向が同じである。遺物は P2238 から土師器の小片が出土したのみである。

B 井　　戸

SE2142（図版 7・12・20）

8H11 グリッドに位置する。断面形は漏斗状を呈する素掘りの井戸である。覆土 1 ～ 3 層は、Ⅳ層のブロック土を含んだⅤ層主体土で、人為的な埋土と考えられる。3 層土中から底部に穿孔のある土師器椀（2）が正位で出土した。底面の近くに表面が焼けている重量 500g ～ 10kg の礫 9 点の集積があり、その近くで瓢箪が出土した。時期は、出土遺物から 9 世紀中葉である。

SE2147（図版 7・12・20）

9H12・17 グリッドに位置する。断面形は漏斗状を呈する素掘りの井戸で、覆土は 3 層に分層でき、水平堆積している。遺物は 1・3 層から須恵器杯、土師器無台椀・小甕などが出土し、時期は 9 世紀中葉である。

SE2246（図版 4・12・20）

2F10 グリッドに位置しており、近世以降に作られた水路（2005 年度調査の SD240）の縁際にある。覆土は 3 層に分層した。レンズ状堆積であるが、3 層はⅤ層土の崩落土で、1・2 層は炭化物の濃淡で分けたが、Ⅳ層土ブロックが混じり人為的な埋土と考えられる。遺物は出土しなかったため、時期の特定はできない。

C 土坑・ピット・性格不明遺構

SK2110（図版 6・12・21）

7H10・15 グリッドに位置する。単層の浅い土坑で、土師器無台椀・小甕片と須恵器杯蓋片が出土した。

SK2111（図版 7・12・21）

8H16 グリッドに位置する。覆土はⅡ層とⅢ層がブロック状に混じる人為的な埋土である。断面形は弧状で、底面は凹凸が著しい。同じような遺構が弧宮遺跡から西側 640m の所にある屋敷割付遺跡［渡邊 2008］で多く検出されており、「人為的埋土土坑」として報告されている。遺物は、土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀などが出土したが、細片化したものが多い。

SK2113（図版 6・12）

7H12・13 グリッドに位置し、P2124 を切っている。覆土は単層で、浅い土坑である。遺物は、土師器無台椀・小甕の細片が出土した。

SK2118（図版 7・12・21）

8H17・18 グリッドに位置し、SX2150 と SD2133 を切っている。覆土はⅢ層土主体の単層で、底面の凹凸が著しい。遺物は細片であるが、須恵器突帯付四耳壺（4）・無台杯、土師器無台椀・小甕など多く出土した。

SK2140（図版 7・12・21）

9I8 グリッドに位置する。断面形は弧状で、深さは浅い。覆土は、前述の SK2111 と同様のⅡ層とⅢ層がブロック状に混じる人為的な埋土である。遺物は土師器無台椀の小片が出土した。

SK2141（図版 7・12・21）

9I8 グリッドに位置する。SK2140 の南隣にあり、覆土は同じくⅡ層とⅢ層がブロック状に混じる埋土である。遺物は、土師器小甕の小片が出土した。

SK2145（図版 7・12・21）

8I5 グリッドに位置する。畑作溝と考えられる溝群の南端にある。遺構上部は SD2138 に切られている。覆土は 3 層に分層でき、3 層中から完形の土器 3 点が出土した。上から順に、正位で出土した体部に墨書が記されている土師器無台椀（7）、その下に土師器無台椀（6）が正位で出土した。さらにその下、底面近くから須恵器の小型短頸壺（5）が出土した。この遺構は、遺物の出土状況から地鎮を行った埋納遺構ではないかと考えている。時期は、周辺の遺構より古く 9 世紀後葉である。

SK2148（図版 8・13・21）

10I1 グリッドに位置する。断面形状が箱型を呈する。土師器の無台椀（8）が出土した。

SK2152（図版 5・13・22）

5F17 に位置する。断面形は弧状である。覆土は単層で、Ⅴ層主体にⅣ層がブロック状に混じる。底面は凸凹して、人為的埋土土坑の類である。遺物は須恵器有台杯・甕の小片が出土している。

SK2153（図版 5・13・22）

5F13 グリッドに位置する。断面形が弧状で、覆土はⅣ層が主体である。遺物は出土しなかった。

SK2154（図版 5・13・22）

5G4 グリッドに位置する。断面形が半円状である。覆土はⅤ層主体にⅣ層ブロックが混じる。人為的埋土である。遺物は須恵器の杯蓋、土師器の小甕片などが出土した。

SK2156（図版 5・13・22）

5F11 グリッドに位置する。断面形が弧状で、覆土はⅣ層が主体である。遺物は出土しなかった。

SK2211（図版 6・13・22）

6F25 グリッドに位置する。覆土は 2 層に分層した。1 層はⅤ層主体にⅣ層ブロックが混じり、2 層は

Ⅳ層主体にⅤ層ブロックが混じる。人為的埋土土坑である。遺物は出土しなかった。

SK2213（図版 6・13・22）

6F5 グリッドに位置する。断面形が弧状である。覆土は Ⅲ層主体であるが、遺物は出土しなかった。

SK2230（図版 6・13・22）

7G12 グリッドに位置する。SD2225 を切っている。覆土は Ⅲ層主体で 3 層に分層でき、レンズ状に堆積する。土坑としたが、形状からすると柱穴の掘形の可能性もある。遺物は出土しなかった。

SK2252（図版 5・13）

5F7 グリッドに位置する。SD2251 を切っている。覆土はⅤ層主体にⅣ層がブロックで混じり、人為的埋土土坑と考えられる。遺物は出土しなかった。

SK2236（図版図版 7・13・23）

8H5・10 グリッドに位置する。覆土は 3 層に分層した。1 層、3 層は Ⅲ層にⅣ層ブロックが混じる人為的な埋土であるが、2 層は自然流入土である。1 度埋めてから再度埋めるのに時間差が見られる。遺物は須恵器杯・有台杯・杯蓋片が出土した。

P2119（図版 6・13・17・23）

7G23 グリッドに位置する。柱根が残存する柱穴で、周辺に他の柱穴が確認できなかったことから建物と断定できない。柱根は中が朽ちたのか空洞になっていて、その中に須恵器の甕片（9）を内面側を下に伏せた状態で置き、その上にカマドの炉壁片と考えられるもの 2 点（10・11）が据えた状態であった。

SX2150（図版 7・13・23）

8H13 グリッドに位置する。SK2118 に切られている。形状は隅丸長方形で、深さは浅い。底面は炭化物に覆われていて、細片のものが多い須恵器杯・有台杯・杯蓋（13）・甕、土師器無台椀・小甕などが出土した。性格不明遺構に含めたが、同じように底面が炭層で覆われている 2005 年度調査で検出した SK722 と同じ性格の遺構の可能性がある。

D 溝

畑 跡　溝の中で、細長い数条の溝が平行しているものは畑の耕作痕と考えられるものである。6・7G グリッドで検出した SD2205・SD2207・SD2208・SD2210・SD2214 などの溝群、8・9H グリッドで検出した SD2122・SD2130 ～ 2134 の溝群が相当する。溝ははっきり掘り込みが確認できるもの、痕跡状に微かに残っているものなどがある。これらの畑跡は、SB7 を含めた 2005 年度調査で検出した 6・71 周辺の建物群と軸方向がほぼ同じで、この建物群に伴う畑跡と考えられる（図版 2）。

区画溝　6・7G グリッド周辺の溝群と同じ方向で、幅広で直線状にのびる SD2109（図版 23）は区画溝と考えられる。断面形は半円状で、畑溝と比べて掘り込みも深い。遺物は、須恵器無台杯（14・15）・有台杯・杯蓋・甕、土師器無台椀（17）・長甕・小甕、黒色土器無台椀（16）など多く出土した。時期は 9 世紀中葉～後葉と考えられる。この溝は、南側にある SB7 などの建物群を区画しているものと考える。また、SD2135（図版 23）は、SD2109 の北側に位置し、平行している。須恵器無台杯（19）・杯蓋・甕、土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀などの破片が出土した。SB7 周辺の建物群からの廃棄場のひとつと考えられる。

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要

出土した遺物は、古墳時代の土器が２点、古代の土器が浅箱（箱サイズ 54 × 34 × 10cm）で８箱、木製品が 10 箱、土製品が２点である。古墳時代の土器は下層（Ⅴ層）調査で出土したが、小片で図化しなかった。古代の土器は９世紀中葉が主体で、井戸、土坑、溝から主に出土した。

2　土　　器

SE2142（図版 14・24-1・2）　１は佐渡産の須恵器無台杯で、底部回転ヘラ切り、内面に漆が少量付着している。２は底部回転糸切りの土師器無台椀で、底部の中心を穿孔している。器面全体は劣化が著しいが、内面は滑らかで部分的にミガキ痕が残っている。ほかに須恵器の杯蓋・甕片、土師器の内黒椀・小甕片などが出土した。

SE2147（図版 14・24-3）　３は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯で、佐渡産である。ほかに須恵器の甕、土師器の無台椀・小甕などが出土した。

SK2118（図版 14・24-4）　４は須恵器突帯付四耳壺の体部片で、外面は平行叩き目、内面はナデられるが漆が付着している。西頸城丘陵の滝寺窯産と考えられる。ほかに須恵器の無台杯、土師器の無台椀・長甕・小甕などの細片が出土している。時期は、９世紀中葉である。

SK2145（図版 14・24・25-5 ～ 7）　５は須恵器小型短頸壺の完形品で、底部は回転糸切り、口縁から肩にかけて自然釉がかかる。滝寺窯などの西頸城丘陵産である。6・7 は底部回転糸切りの土師器無台椀で、6 の内面は丁寧にナデられている。7 の体部下位は手持ちでケズられ、内面はミガキである。体部外面の墨書は墨痕がうすくはっきりしないが、「☆」記号の可能性がある。時期は、９世紀後葉である。

SK2148（図版 14・24-8）　８は底部回転糸切りの土師器無台椀である。全体的に劣化が進んでいるが、内面の一部に煤と思われる付着が見られる。

P2119（図版 14・24・25-9 ～ 11）　９は須恵器甕の体部片で、内外面の一部に漆が付着するが、外面の漆は破砕面にも少量見られることから補修ないし水漏れ防止のためと推測される。10・11 は、表面の一部に被熱痕が見られ、カマドの炉壁片と考えておきたい。胎土には 1cm 以下の摩耗が進んだ礫が含まれている。軟質の岩石か粘土かの判断はできない。

P2146（図版 14・24-12）　12 は佐渡産の須恵器無台杯で、底部回転ヘラ切りである。胎土には微細な白色粒が目立つ。

SX2150（図版 14・24-13・14）　13 は須恵器杯蓋で胎土から末野窯などの東頸城丘陵産と考えられる。天井部外面はロクロケズリ、そのほかはロクロナデである。14 は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯で、佐渡産である。胎土に白色粒が多く含まれる。ほかに土師器の椀・長甕・小甕、須恵器の有台杯・甕などの細片が出土した。

SD2109（図版 14・24-15 ～ 17）　15 は須恵器無台杯で佐渡産である。底部付近の劣化が著しく、切り

離し痕は見えない。内面の底部と体部の境には凹帯が明瞭である。16は内面が黒色された土師器椀である。内面は滑らかにミガかれるが、外面は劣化が著しく成形・調整痕は見えない。17は劣化著しく調整痕は見えないが、底部径が小さく体部の高いタイプである。ほかに土師器の長甕・小甕・鍋、須恵器の杯蓋・甕・壺などの細片が出土した。

SD2132（図版 14・24・25-18） 18は底部回転糸切りの土師器無台椀で、底部に「林」と刻書されている。1画目と5画目を一線で記し、最後の8画目を土器体部にまで引いている。また、2005年度調査で、土師器無台椀（292）の底部に「林」と墨書されたものが出土している。器面全体は劣化が著しいが底部内面は平滑に仕上げられている。

SD2135（図版 14・24-19・20） 19は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯で、佐渡産である。胎土に白色粒子が目立つ。20は胎土から西頸城丘陵産の須恵器甕と考えられる。口縁の内外面には部分的にカキ目痕が残っている。

遺構外出土（図版 15・24-21 ～ 26） 21は滝寺窯など西頸城丘陵産の須恵器杯蓋で、天井部外面はロクロケズリ、ほかはロクロナデであるが、内面は滑らかで転用硯の可能性も考慮したい。22の須恵器有台杯、23・24の須恵器無台杯は末野窯など東頸城丘陵産である。いずれも底部回転ヘラ切りで、24の器面は劣化が著しい。25は須恵器広口瓶の口縁部片である。26は須恵器甕の口縁である。26の胎土には5mm前後の礫を含み、焼成はあまく、色調は灰色である。体部外面には平行叩き目が付き、内面は不明瞭だが同心円の当て具痕が見られる。

3 木 製 品（図版 15・25-27 ～ 31）

SE2142から出土した27は、曲物の側板で木釘孔がある。28は曲物の底板で、内面の全面に黒漆が付着している。SE2147から出土した29は、曲物の蓋板で、内面に刃物痕がある。SB18-P2238出土の30とSB18-P2257出土の31は、柱根であるが、腐朽が著しく、詳細は不明である。

第Ⅵ章　ま　と　め

1　2014 年度の調査成果について

狐宮遺跡の 9 世紀代に営まれた平安時代の集落は、掘立柱建物・井戸・畑溝で構成する遺構群が南北方向の微高地上に展開している。これまでの調査で、調査区北側で検出した遺構群は 9 世紀前葉で、調査区東から南側で検出した遺構群は 9 世紀中葉～後葉であることが判明している［飯坂ほか 2007・高橋ほか 2011］。今回調査した地点は、集落の南側遺構群に位置する。検出した主な遺構は、掘立柱建物 3 棟、井戸 3 基、土坑 18 基、溝 53 条で、時期は出土した土器から 9 世紀中葉が主体と考えている。

掘立柱建物 3 棟のうち新たに見つかったのが 2 棟（SB17・18）で、不明であった柱列の柱穴を検出して建物の全容が判明したもの 1 棟（SB7）である。SB17 の北辺側柱列は不明であるが、SB7・SB18 は柱間 2 間の小規模な建物である。SB7・SB18 周辺もこれまで検出した建物群同様に素掘りの井戸（SE2142・SE2147）が点在し畑溝が広がる。SK2145 には、須恵器の小型短頸壺、土師器無台椀、墨書のある土師器無台椀（墨書は「☆」か）が底部から順に埋められており、地鎮などの祭祀行為の可能性がある。

遺物では、SD2132 から土師器椀（18）の底面に「林」と刻書されたものが出土したが、2005 年の調査においても SB7 周辺の包含層から土師器無台椀の底面に「林」と墨書されたものが出土している。

2　総　　括

上越三和道路関係の狐宮遺跡の発掘調査は今回をもって終了する。ここでは、これまでの調査成果を概略する。

遺跡の始まりは、縄文時代草創期にある。出土品は 2 点の尖頭器のみであるが、高田平野の成り立ちを考える上で重要な資料となった。2005 年度調査の古墳時代の陥穴は、新潟県初例である。陥穴は縄文時代に多い遺構であるが、時期は残存した逆茂木の放射性炭素年代測定と古墳時代の遺物が散見されたことから判断した。

平安時代になり本遺跡に集落が形成される。狐宮遺跡の東側は、三角田遺跡［沢田ほか 2006］・延命寺遺跡［山崎ほか 2008］でも検出されている洪水堆積層（Ⅳ層）が堆積する。平安時代の遺構はこの洪水堆積層上で検出でき、洪水堆積層下からは縄文時代、古墳時代の遺物が少量出土した。洪水堆積層の時期は三角田遺跡から出土した遺物を基に 8 世紀中葉～9 世紀前葉であることが明らかになっている［沢田ほか前掲］。

集落形成の始まりは調査区北側で 8 世紀代の遺物もやや散見するが中心は 9 世紀前葉で、柱間 3 間以上の掘立柱建物が建てられる。また、遺構は建物、井戸、畑溝で構成することから、農耕開発を基盤とした集落と考えた。9 世中葉からは洪水堆積層面の東から南側に集落の中心が移る。建物の規模が小規模化し、散村化した傾向が見られる。

関川右岸の古代遺跡は、8 世紀代の三角田遺跡・延命寺遺跡などの集落が重川周辺に点在していたが、洪水を期に 9 世紀以降、狐宮遺跡、越前遺跡［笹澤 2003b］のある戸野目川周辺の微高地を拠点に集落が展開したと考えられる。

引用・参考文献

相沢　央　2004　『上越市史』通史編Ⅰ　自然・原始・古代　新潟県上越市

荒川隆史ほか　2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第133集　青田遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛泰ほか　2007　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第171集　狐宮遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川智紀ほか　2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第230集　下割遺跡Ⅴ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

岡本郁栄　1999　「序章　第1節　新潟県の地形概観」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　高志書院

小田由美子ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第149集　滝寺古窯跡・大貫古窯跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1999　「第4章　第2節　土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　高志書院

春日真実　2011　「上越市岩ノ原遺跡出土の古代土器について」『研究紀要』6　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学・荒川隆史　1999　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第93集　和泉A遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

桐原雅史　2007　「2　遺跡周辺の地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第171集　狐宮遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

坂井秀弥ほか　1984　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第35集　今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』　新潟県教育委員会

笹澤正史　2003a　「第5章　第Ⅰ節　時代概説」『上越市史』資料編2考古　新潟県上越市

笹澤正史　2003b　「越前遺跡」『上越市史』資料編2考古　新潟県上越市

沢田　敦ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第154集　三角田遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

高田平原団体グループ　1962　「高田平原の沖積層について－高田平原の団体研究・そのⅣ－」『新潟大学教育学部高田分校研究紀要』第7号　新潟大学教育学部高田分校

高田平野団体研究グループ　1981　「高田平野の第四系と形成史－新潟県の第四系・そのXXIV－」『新潟大学教育学部高田分校研究紀要』第25号　新潟大学教育学部高田分校

高野武男　2002　「第1章　地形・地質　第2節　上越市周辺地域の地形1　沖積平野の地形」『上越市史　資料編1自然』　新潟県上越市

高橋保雄ほか　2008　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第182集　岩ノ原遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋保雄ほか　2011　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第227集　狐宮遺跡Ⅱ・下割遺跡Ⅳ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋保雄ほか　2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第236集　二反割遺跡・延命寺遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

新潟県農地部農村総合整備課　1980・1989　『新潟県上越地域土地分類基本調査－高田東部・高田西部』

北陸地方建設局北陸技術事務所　1981　『新潟平野部の地盤図集（柏崎・高田平野編）－地形分類図およびN値等深線図（2葉）』

山崎忠良ほか　2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第120集　下割遺跡Ⅰ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

山崎忠良ほか　2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第134集　下割遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

山崎忠良ほか　2008　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第201集　延命寺遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

米沢　康　1980　「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』第32巻6号　信濃史学会

渡邊裕之ほか　2008　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第185集　屋敷割付遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

掘立柱建物観察表

遺構名	SB17	位置	4・5F	長辺（m）	4.1m以上	年代		建物軸方位	床面積（㎡）	
構造	2間以上			短辺（m）		9世紀		N-14°-E	柱穴	柱穴間隔(m)
柱穴	形状	断面形	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	底面標高（m）	柱根・痕	出土遺物	P2245・P2248	2.00
P2245	円形	鼓状	0.60	0.55	0.47	7.03	痕		P2246・P2250	2.10
P2248	円形	鼓状	0.55	0.52	0.38	7.13				
P2250		U字状	(0.32)		0.44	7.06				

遺構名	SB18	位置	9・10H	長辺（m）	3.60	年代		建物軸方位	床面積（㎡）	11.90
構造	東西棟側柱建物2間×2間			短辺（m）	3.30	9世紀		N-54°-E	柱穴	柱穴間隔(m)
柱穴	形状	断面形	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	底面標高（m）	柱根・痕	出土遺物	P2233・P2259	1.43
P2233	不整円形	平円状	0.52	0.44	0.50	6.67	柱状状		P2259・P2238	1.93
P2235	楕円形	U字状	0.42	0.34	0.30	6.77			P2238・P2240	1.81
P2241	楕円形	U字状	0.54	0.28	0.55	6.58			P2240・P2257	1.79
P2259	円形	平円状	0.42	0.39	0.38	6.67	柱状状		P2257・P2258	1.71
P2238	円形	平円状	(0.46)		0.54	6.84	柱痕	土師器椀	P2258・P2241	1.64
P2240	円形	U字状	0.50	0.46	0.53	6.69			P2241・P2235	1.69
P2257	楕円形	鼓状	0.57	0.45	0.37	6.56	柱痕		P2235・P2233	1.76
P2258	不整楕円形	平円状	0.61	0.46	0.45	6.91	柱状状			

遺構名	SB7	位置	7H	長辺（m）	4.80	年代		建物軸方位	床面積（㎡）	22.70
構造	南北棟側柱建物2間×2間			短辺（m）	4.72	9世紀		N-5°-E	柱穴	柱穴間隔(m)
柱穴	形状	断面形	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	底面標高（m）	柱根・痕	出土遺物	P728・P729	2.32
P728	楕円形		0.58	0.46	0.76	6.98	痕		P729・P730	2.06
P729	楕円形		0.60	0.44	0.73	6.95	痕		P730・P737	2.66
P730	楕円形		0.92	0.64	0.89	6.81	痕		P737・P2151	4.80
P737	方形		1.20	1.10	0.91	6.84	痕		P2151・P2120	2.49
P2120	不整円形	U字状	0.50	0.50	0.52	6.97	痕			
P2151	楕円形	平円状	0.86	0.55	0.74	6.76	痕			

狐宮道跡遺構観察表（1）

種別	番号	グリッド	検出層位	覆土（埋土）	方位	長（m）	幅（m）	深（m）	平面形	断面形	切りあい（新→古）	備考
SK	2142	8H11	Ⅳ	水平		1.90	1.54	1.31	不整円形	漏斗状	SE2147→SD2132 SE2147→SX2239	表面7の井戸　遺物多、土師器内黒椀・鉢・長皿・小皿、須恵器杯・杯蓋・甕
SK	2147	9H12・17	Ⅳ	水平		1.60	1.29	1.12	不整円形	漏斗状	SE2147→SD2132 SE2147→SX2239	表面7の井戸　土師器椀・小皿、須恵器杯・甕
SK	2246	2F10	Ⅳ	レンズ状		0.84	0.79	0.96	不整円形	U字状		表面7の井戸?
SK	2110	7H10・15	Ⅳ	単層		1.30	1.13	0.06	不整楕円形	鼓状		土師器鉢・小皿、須恵器杯蓋
SK	2111	8H16	Ⅳ	単層		1.97	1.26	0.14	隅丸長方形	鼓状		土師器鉢・内黒・長皿・小皿、須恵器杯・壺
SK	2113	7H12・13	Ⅳ	単層		0.95	0.64	0.1	楕円形	鼓状	SK2113→P2124	土師器鉢・小皿
SK	2118	8H17・18	Ⅳ	単層		2.12	1.73	0.17	隅丸長方形	鼓状	SK2118→SX2150 SK2118→SD2133	遺物多い、土師器鉢・長皿・小皿、須恵器杯・壺甕・砥石・石製品
SK	2140	9I3・8	Ⅳ	単層		1.21	1.06	0.13	円形	鼓状		土師器鉢
SK	2141	9I8	Ⅳ	単層		1.06	0.72	0.04	楕円形	鼓状		土師器小皿
SK	2145	8I5	Ⅳ	レンズ状		0.70	0.64	0.98	不整円形	U字状	P2145→SD2138	完形の土師器椀2点、須恵器小型短頸壺が埋められていた
SK	2148	10I1	Ⅳ	レンズ状		0.89	0.79	0.46	円形	鼓状		土師器椀
SK	2152	5F17	V	単層		1.40	1.14	0.24	楕円形	鼓状		須恵器有台杯・蓋片
SK	2153	5F13	V	レンズ状		1.11	0.77	0.15	楕円形	鼓状		
SK	2154	5G4	V	単層		1.83	1.75	0.42	不整円形	平円状		須恵器杯蓋、土師器小皿
SK	2156	5F11	V	単層		0.86	0.70	0.09	楕円形	鼓状	SK2156→SD2253	
SK	2211	6F25	Ⅳ	斜石		(0.98)		0.27		鼓状		開架で北側欠損
SK	2213	6F5	Ⅳ	単層		0.99	0.64	0.09	不整楕円形	鼓状		
SK	2216	7G11	Ⅳ	単層		(0.59)		0.09	鼓状		SD2219→SK2216→SD2225	土師器鉢片
SK	2230	7G12	Ⅳ	レンズ状		0.83	0.76	0.68	円形	U字状	SK2230→SD2225	
SK	2236	8H5・10	Ⅳ	レンズ状		2.23	1.66	0.41	不整楕円形	平円状		須恵器杯・有台杯・杯蓋
SK	2252	5F7	V	単層		1.66		0.2		鼓状	SK2252→SD2251	開架で北側欠損
SK	2150	8H13	Ⅳ	水平		3.16	1.82	0.09	隅丸長方形	鼓状	SX2150→P2157 SX2150→SK2118	遺物多い、土師器椀・長皿・小皿、須恵器杯・有台杯・杯蓋・甕
SK	2239	9H12・17	Ⅳ	単層		1.24	1.09	0.09	不整形	鼓状	SK2239→SE2147	土師器椀・小皿、須恵器杯
SD	2100	11I15-12I14	Ⅳ	単層	N-85°-W	8.25	0.35	0.11		鼓状		
SD	2101	12I1-11	Ⅳ	単層	N-3°-W	4.16	0.32	0.12		鼓状		
SD	2102	11I18-11J5	Ⅳ	単層	N-25°-W	5.45	0.37	0.18		平円状		
SD	2104	6H10-7H12	Ⅳ	単層	N-48°-W	6.06	0.42	0.07		鼓状		
SD	2105	6H8・9	Ⅳ	単層	N-47°-W	(2.27)	0.31	0.05		鼓状		
SD	2106	7H1・2	Ⅳ	単層	N-49°-W	3.87	0.72	0.04		鼓状	SD2106→P2117	土師器椀・小皿、須恵器杯・壺
SD	2109	6G23-8H25	Ⅳ	レンズ状	N-77°-W	16.29	0.94	0.15		平円状		
SD	2114	7H2	Ⅳ	単層	N-33°-W	1.78	0.73	0.1		鼓状		土師器椀・長皿、須恵器杯・杯蓋
SD	2115	7H9・10	Ⅳ	単層	N-89°-W	1.85	0.27	0.05		鼓状		
SD	2116	7H9・10	Ⅳ	単層	N-82°-E	1.00	0.44	0.05		鼓状		土師器椀
SD	2118	7G12・13	Ⅳ	レンズ状	N-88°-E	0.97	0.26	0.15				土師器椀・長皿・小皿
SD	2121	8H21-23	Ⅳ	単層	N-56°-W	4.12	0.32	0.03		鼓状		
SD	2122	8H18・19	Ⅳ	単層	N-90°-E	3.56	0.35	0.08		鼓状		須恵器甕
SD	2125	7H20・8H16	Ⅳ	レンズ状	N-75°-W	2.90	0.58	0.15		鼓状		土師器椀・長皿、須恵器杯・有台杯・壺
SD	2126	8H1・6	Ⅳ	単層	N-51°-W	2.35	0.68	0.12		鼓状		土師器椀・長皿・小皿、須恵器杯
SD	2127	8H7	Ⅳ	単層	N-58°-W	1.55	0.54	0.09		鼓状		土師器椀・長皿、須恵器甕
SD	2130	8H24-9H21	Ⅳ	単層	N-90°-E	4.67	0.37	0.07		鼓状	SD2130→SD2139	土師器椀・長皿
SD	2131	8H24-9H17	Ⅳ	単層	N-90°-E	5.88	0.26	0.05		鼓状	SD2131→SD2139	土師器椀
SD	2132	8H20-9H11	Ⅳ	単層	N-88°-E	3.90	0.24	0.08		鼓状		土師器椀
SD	2133	8H18-14	Ⅳ	単層	N-90°-E	(3.71)	0.29	0.05		鼓状	SD2133→SK2118	土師器黒色椀・鉢、須恵器杯・甕
SD	2134	8H25-9H22	Ⅳ	単層	N-90°-E	5.71	0.21	0.07		鼓状		

狐宮遺跡遺構観察表（2）

種別	番号	グリッド	検出面	層土（粍土）	方位	長(m)	幅(m)	深(m)	平面形	断面形	切りあい（新＞古）	備考
SD	2135	6G19-7G16	Ⅳ	レンズ状	N-84°-W	4.13	1.00	0.1		箱状		遺物多、土師器内黒・小型・椀・長皿、須恵器壺・甕・杯・蓋・壺
SD	2137	8H23・24	Ⅳ	単層	N-50°-W	2.10	0.63	0.16		弧状		
SD	2138	8I5-9I1	Ⅳ	単層	N-53°-W	2.27	0.55	0.07		弧状	SD2138=P2145	土師器長皿
SD	2139	8H19-25	Ⅳ	単層	N-9°-W	(1.78)	0.61	0.08		弧状	SD2139=SD2130 SD2139=SD2131	土師器椀
SD	2143	6H4・5	Ⅳ	単層	N-58°-W	2.64	0.57	0.04		弧状	SD2143=SD2144	
SD	2144	6H3-7G21	Ⅳ	レンズ状	N-85°-W	6.64	0.67	0.06		弧状	SD2144=SD2143	土師器椀・長皿、須恵器甕
SD	2149	10I19-24	Ⅳ	単層	N-25°-E	(1.46)	0.51	0.05		弧状		
SD	2202	6G9	Ⅳ	単層	N-85°-W	(0.9)	0.45	0.04		弧状		土師器小皿
SD	2204	6F22	Ⅳ	単層	N-81°-E	(1.03)	0.31	0.06		弧状		
SD	2205	6G4・5	Ⅳ	単層	N-87°-E	5.44	0.27	0.05		弧状	SD2205=P2217	
SD	2206	7G1	Ⅳ	単層	N-75°-W	1.17	0.31	0.05		弧状		土師器長皿
SD	2207	6G8・9・10	Ⅳ	単層	N-74°-W	(4.43)	0.34	0.07		弧状		土師器長皿
SD	2208	6G13-15	Ⅳ	単層	N-79°-W	6.38	0.40	0.06		弧状		土師器長皿・小皿
SD	2209	6G3	Ⅳ	単層	N-82°-W	(0.5)	0.28	0.04				
SD	2210	6G13-15	Ⅳ	単層	N-87°-W	7.31	0.28	0.03		弧状		土師器小皿
SD	2212	7G6	Ⅳ	単層	N-87°-W	2.20	0.35	0.05		弧状		
SD	2214	6G18-20	Ⅳ	単層	N-90°-W	(5.66)	0.32	0.04		弧状	SD2214=SD2225	須恵器杯蓋、土師器小皿
SD	2215	7G1	Ⅳ	単層	N-84°-W	1.48	0.41	0.08		弧状		土師器長皿
SD	2218	7G12・13	Ⅳ	水平	N-68°-W	0.97	0.33	0.15		平円状		
SD	2219	7G11	Ⅳ	単層	N-89°-W	1.90	0.30	0.1		弧状	SD2219=SK2216	
SD	2220	6G19・20	Ⅳ	単層	N-86°-W	2.39	0.36	0.03				
SD	2221	7G19・20	Ⅳ	単層	N-89°-W	2.20	0.29	0.07		弧状		
SD	2222	7G10・15	Ⅳ	単層	N-62°-E	(2.02)	0.26	0.13		弧状		
SD	2223	8G12	Ⅳ	単層	N-82°-W	1.12	0.40	0.14		弧状		土師器椀
SD	2224	7G13	Ⅳ	単層	N-24°-E	1.17	0.36	0.08				
SD	2225	7G11-13	Ⅳ	レンズ状	N-81°-W	5.36	0.53	0.22		平円状	SD2225=SK2230	須恵器杯・壺、土師器椀・長皿・小皿
SD	2229	8G12	Ⅳ	レンズ状	N-48°-W	1.05	0.46	0.05		弧状		土師器椀・長皿、須恵器甕
SD	2242	4E10	Ⅳ	単層	N-70°-W	2.90	0.33	0.15		弧状		
SD	2244	3E25	Ⅳ		N-47°-E	2.00	0.36	0.12		弧状		
SD	2247	5F6	Ⅳ	単層	N-73°-E	(1.34)	0.31	0.1		弧状	SD2247=P2250	
SD	2251	4F15・5F11	Ⅳ	単層	N-73°-W	5.34	0.88	0.08		弧状	P2254=SD2251=SK2252 SD2251=SD2253	
SD	2253	5F11	Ⅳ	単層	N-74°-E	(1.68)	0.27	0.1		弧状	SK2156=SD2253	
SD	2255	5F13・18	Ⅳ	単層	N-23°-W	4.67	0.30	0.12				
P	2103	6H2				0.62		0.13	楕円形	弧状		開室で西側欠損
P	2107	7H6	Ⅳ	柱痕状		0.35	0.33	0.26	円形	U字状		
P	2108	6H15	Ⅳ	柱痕状		0.38	0.34	0.46	円形	U字状		土師器小皿、須恵器壺
P	2112	6H10	Ⅳ	レンズ状		0.34	0.31	0.44	円形	U字状		土師器椀
P	2117	7H7	Ⅳ	柱痕・レンズ状		0.35	0.33	0.29	円形	U字状	P2117=SD2106	
P	2119	7G23	Ⅳ	柱痕状		0.74	0.71	0.49	円形	平円状		須恵器甕、B?壁片？、空洞材
P	2120		Ⅳ	柱痕状		0.50	0.50	0.52	不整円形	U字状		SB7柱穴
P	2124	7H8	Ⅳ	柱痕状		0.38	0.34	0.35	円形	U字状	P2124=SK2113	土師器小皿、須恵器杯
P	2126	8H17	Ⅳ	レンズ状		0.34	0.33	0.2	円形	箱状		土師器椀、須恵器有台杯
P	2129	8H17	Ⅳ	柱痕状		0.44	0.34	0.28	楕円形	U字状		
P	2136	8H16	Ⅳ	柱痕状		0.40	0.35	0.37	円形	U字状		
P	2146	7H15	Ⅳ	レンズ状		0.34	0.30	0.4	円形	U字状		須恵器杯
P	2151	7H17・18	Ⅳ	柱痕状		0.86	0.55	0.74	楕円形	平円状		SB7柱穴
P	2155	5H5	Ⅳ	単層		0.40	0.38	0.2	円形	平円状		
P	2157	8H13・14	Ⅳ	レンズ状		0.65	0.50	0.43	楕円形	平円状	P2157=SK2150	土師器内黒椀、須恵器杯
P	2200	6F23	Ⅳ	柱痕状		0.38	0.38	0.36	円形	平円状		
P	2201	6F4	Ⅳ	レンズ状		0.36	0.34	0.22	円形	平円状		
P	2203	6G3	Ⅳ	単層		0.33	0.27	0.27	円形	平円状		
P	2217	6G5	Ⅳ	単層		0.37	0.35	0.36	円形	U字状	P2217=SD2205	
P	2226	8G18	Ⅳ	単層		0.30	0.29	0.12	円形			
P	2227	8G21	Ⅳ	単層		0.23	0.19	0.29	楕円形	U字状		土師器椀
P	2228	8G18	Ⅳ	柱痕状		0.35	0.33	0.3	円形	U字状		
P	2231	8G24	Ⅳ	柱痕状		0.36	0.34	0.36	円形	U字状		
P	2232	8G25	Ⅳ	柱痕状		0.47	0.42	0.35	円形	平円状		土師器内黒椀
P	2233	9H14	Ⅳ	柱痕状		0.52	0.44	0.5	不整円形	平円状		SB18柱穴
P	2234	9H1	Ⅳ	柱痕状		0.36	0.26	0.34	楕円形	U字状		土師器椀
P	2235	9H15	Ⅳ	単層		0.42	0.34	0.3	楕円形	U字状		SB18柱穴
P	2237	7G25	Ⅳ	柱痕状		0.28	0.25	0.24	円形	U字状		
P	2238	9H18	Ⅳ	柱痕		(0.46)		0.54	円形	平円状		SB18柱穴　柱痕残存　土師器椀
P	2240	9H24	Ⅳ	柱痕・レンズ状		0.50	0.46	0.53	円形	平円状		SB18柱穴
P	2241	10H11	Ⅳ	レンズ状		0.54	0.28	0.55	楕円形	U字状		SB18柱穴
P	2243	4G10	Ⅴ	単層		0.28		0.11	円形			
P	2245	4F9	Ⅴ	レンズ状・柱痕		0.60	0.55	0.47	円形	平円状		SB17柱穴
P	2246	4F10	Ⅴ	レンズ状		0.55	0.52	0.38	円形	平円状		SB17柱穴
P	2249	4F4	Ⅴ	単層		0.26	0.20	0.19	楕円形			
P	2250	5F6	Ⅴ	レンズ状		(0.32)		0.44		U字状	P2250=SD2247	SB17柱穴　開室で欠損
P	2254	4F14	Ⅴ	単層		0.37	0.31	0.31	円形	U字状	P2254=SD2251	
P	2256	8H14	Ⅳ	レンズ状		0.61	0.39	0.19	楕円形	平円状		土師器内黒椀・椀・長皿・小皿
P	2257	9H25	Ⅳ	柱痕		0.57	0.45	0.37	楕円形	箱状		SB18柱穴　柱痕残存
P	2258	9H20	Ⅳ	柱痕・レンズ状		0.61	0.46	0.45	不整楕円形	平円状		SB18柱穴
P	2259	9H19	Ⅳ	柱痕状		0.42	0.29	0.38	円形	平円状		SB18柱穴
P	2260	9H20	Ⅳ	柱痕・レンズ状		0.40	0.33	0.15	不整楕円形	平円状		SB18柱穴？

土器 観察表

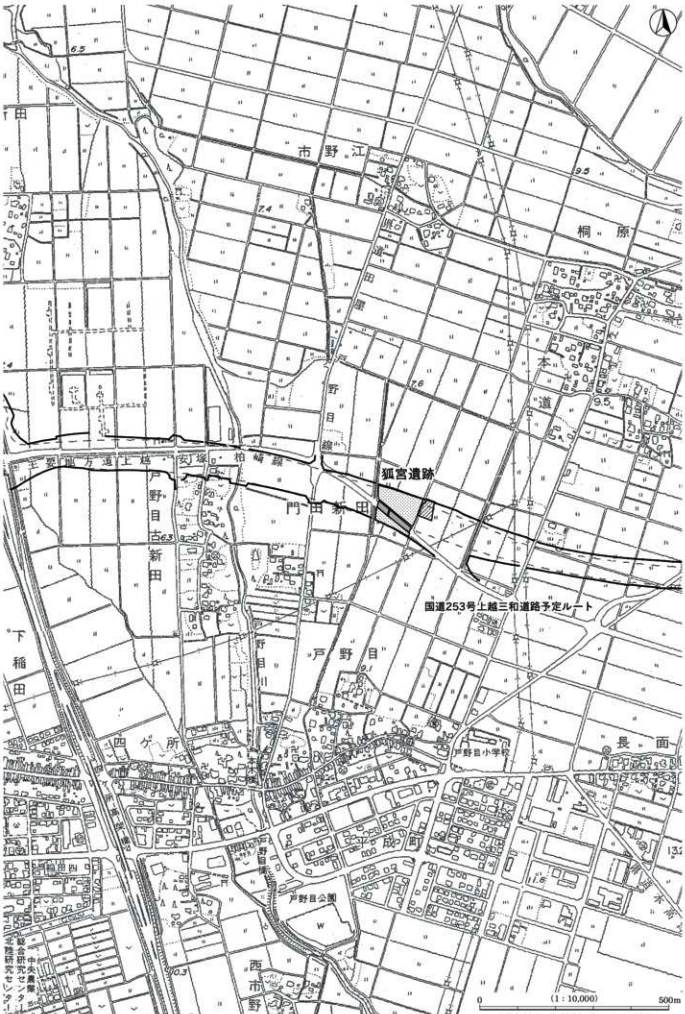
報告番号	出土地点			時期	種別	器種	口縁残存又/36	法量			残高指数	色調		焼成	胎土	調整			備考
	位置	遺構	層				口径	底径	器高			外面	内面			外面	内面	底面	
1	8H11	SK2142		古代	須恵器	無台杯	2	11.2	8.0	3.2	29	灰色 (5Y5/1)	灰色 (7.5Y6/1)	良	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	底面内面漆付着
2	8H11	SK2142	3	古代	土師器	椀	36	13.0	5.5	3.6	28	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	普通	赤色粒子・石英	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	底面の中心に穿孔あり
3	9H12	SE2147	1	古代	須恵器	無台杯	36	12.8	8.4	3.4	27	灰白色 (10YR7/1)	灰白色 (2.5Y7/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	低高座
4	8H18	SK2118	1	古代	須恵器	突帯付四耳壺						灰黄色 (2.5Y6/2)	灰色 (5Y6/1)	良		平行叩き目	ナデ		西側城丘陵
5	8H5	SK2145	3	古代	須恵器	小型短頸壺	36	3.6	5.0	5.4		オリーブ黒色 (7.5Y3/1)	オリーブ黒色 (7.5Y3/1)	良	細砂粒多	ロクロケズリ	ロクロナデ	回転糸切り	西側城丘陵
6	8H5	SK2145	3	古代	土師器	椀	36	12.3	5.6	3.7	30	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	普通	細砂粒	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内面中位から底面褐色に変色
7	8H5	SK2145	3	古代	土師器	椀	36	16.6	7.0	5.6	34	浅黄色 (2.5Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	普通	白色粒子・チャート・石英	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	体部外面「合」墨書
8	10H	SK2148	1	古代	土師器	椀	9	13.3	6.5	4.1	31	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	浅黄色 (2.5Y7/4)	普通	白色粒子・チャート・石英	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
9	7G23	P2119	2	古代	須恵器	甕						灰色 (10Y5/1)	灰色 (N6/)	良	白色粒子・チャート	平行叩き目・カキ目	同心円当て具		別れ口に接付着?
10	7G23	P2119	2	古代								浅黄色 (5Y7/3)			砂礫多い				炉壁片か?
11	7G23	P2119	2	古代								浅黄色 (5Y7/3)			砂礫多い				炉壁片か?
12	7H15	P2146	1	古代	須恵器	無台杯	3	12.0	8.0	3.2	27	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	低高座
13	8H13	SX2150	1	古代	須恵器	杯蓋	6	15.8	4.1	3.0		黄灰色 (2.5Y6/1)	灰色 (5Y5/1)	良	石英	ロクロケズリ・ロクロナデ	ロクロナデ		東側城丘陵
14	8H13	SX2150	1	古代	須恵器	無台杯	10	12.2	7.6	3.0	25	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	良	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	低高座
15		SD2109	1	古代	須恵器	無台杯	12	12.8	7.0	2.8	22	灰色 (5Y6/1)	灰白色 (7.5Y6/1)	普通	白色粒子	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	低高座
16	7G25	SD2109	3	古代	土師器	内黒椀	12	16.0				にぶい黄橙色 (10YR7/3)	黒色 (N2/)	普通	白色粒子・黒色粒子		ミガキ		
17	7G22	SD2109	1	古代	土師器	椀	19	11.8	4.6	4.2	36	浅黄橙色 (10YR8/3)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	普通	1cm白色砂礫含む	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	低高座
18	9H12	SD2132	1	古代	土師器	椀	8	13.0	6.0	4.4	34	浅黄色 (2.5Y7/3)	浅黄色 (2.5Y7/3)	普通		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	低高座か 「林」墨書
19	7G16	SD2135	1	古代	須恵器	無台杯	26	12.2	6.0	3.1	25	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	低高座
20	7G16	SD2135	1	古代	須恵器	甕	4	26.0				灰黄色 (2.5Y6/2)	灰白色 (2.5Y7/1)	良	4mm粒の白色粒子含む				西側城丘陵
21	8H6		Ⅲ	古代	須恵器	杯蓋	6	17.0				灰色 (N5/)	灰色 (7.5Y5/1)	良	白色粒子多い	ロクロケズリ・ロクロナデ	ロクロナデ		西側城丘陵・転用硯か
22	9G		Ⅲ	古代	須恵器	有台杯	7	13.0	7.0	3.5	27	灰色 (7.5Y6/1)	灰白色 (7.5Y7/1)	良		ロクロナデ	ロクロナデ		東側城丘陵
23	9H24		Ⅲ	古代	須恵器	無台杯	2	12.8	8.4	3.1	24	灰色 (5Y6/1)	灰色 (5Y6/1)	普通	白色粒子多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	東側城丘陵
24	6G12		カクラン	古代	須恵器	無台杯	14	13.0	6.5	3.0	23	灰白色 (5Y7/1)	灰白色 (5Y7/1)	不良	白色粒子多い	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	西側城丘陵
25	7G21		Ⅲ	古代	須恵器	広口瓶	7	17.0				灰色 (N6/)	灰色 (7.5Y5/1)	良	砂	ロクロナデ	ロクロナデ		西側城丘陵
26	9H8		Ⅲ	古代	須恵器	甕	4	19.8				灰白色 (2.5Y7/1)	灰黄色 (2.5Y7/2)	不良	5mm粒の砂礫含む	平行叩き目	同心円当て具		東側城丘陵

木製品 観察表

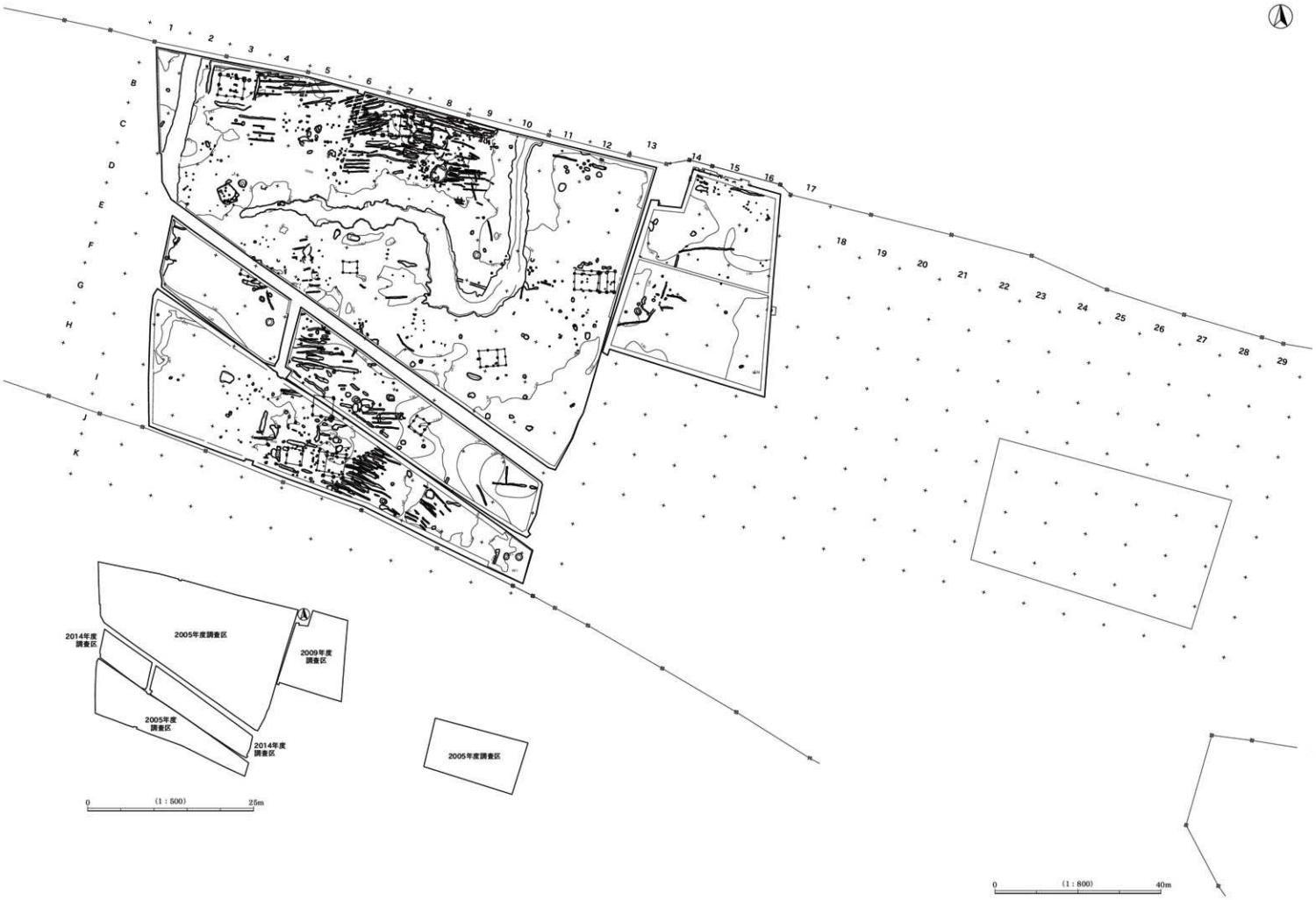
遺構No	報告番号	時期番号	出土地点			器種	樹種	本数(1)	法量			備考
			位置	遺構	層				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	
32	27		8H11・12	SE2142	3	曲物底板	アスナロ属か?	柾目		(2.70)	0.20	孔1
31	26		8H11・12	SE2142	3	曲物底板	アスナロ属か?	柾目	16.80	(16.50)	0.50	内面:墨色付着物
30	29		9H12・17	SE2147	3	曲物底板	アスナロ属か?	柾目	16.90	(7.00)	1.00	内面:刃物痕
33	30			SB18-P2238		杭根		割材(芯なし)	(11.90)	(7.50)	(4.50)	
34	31			SB18-P2257		杭根		分割(芯なし)	(25.90)	(14.50)	(4.50)	

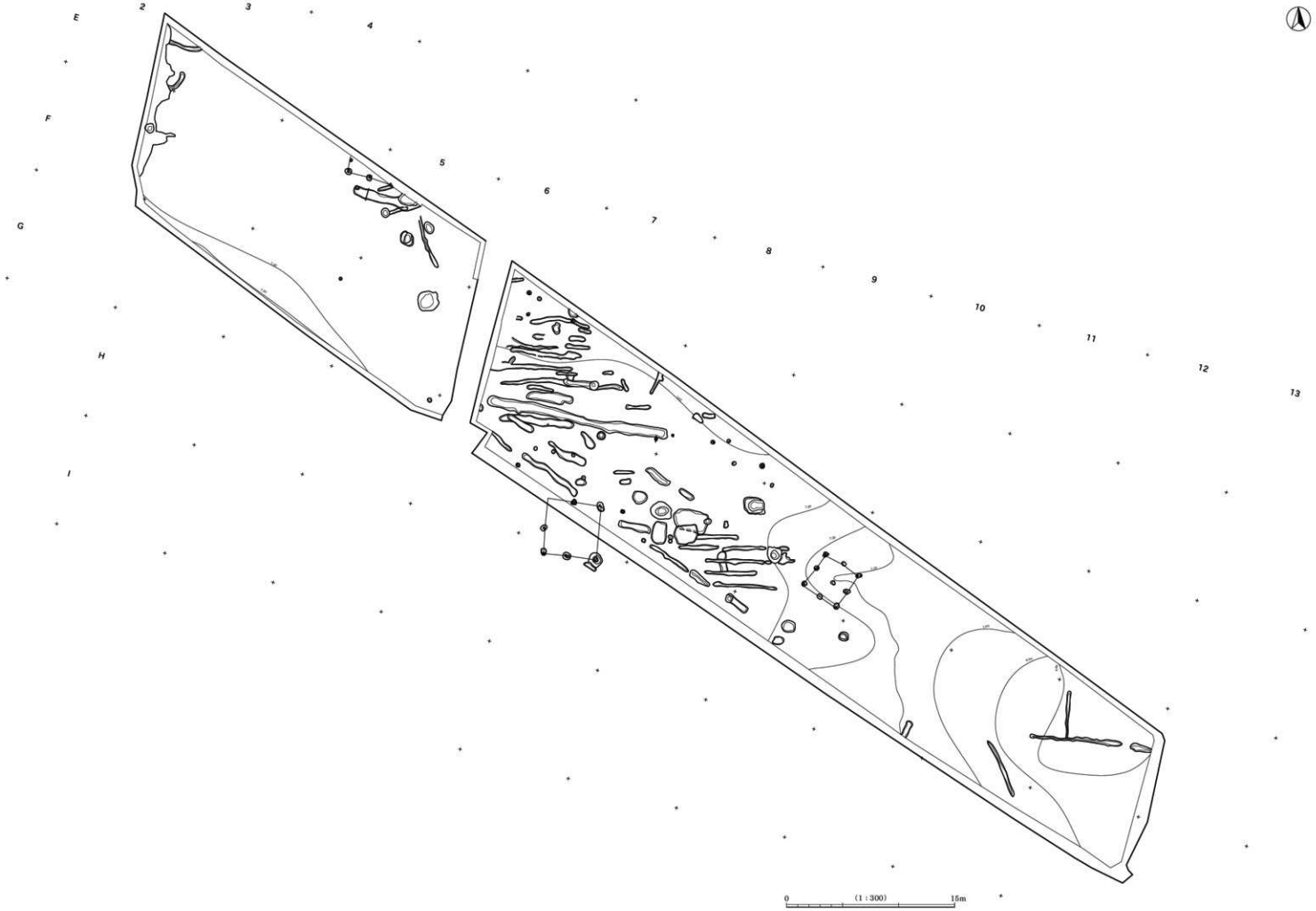
図　　版

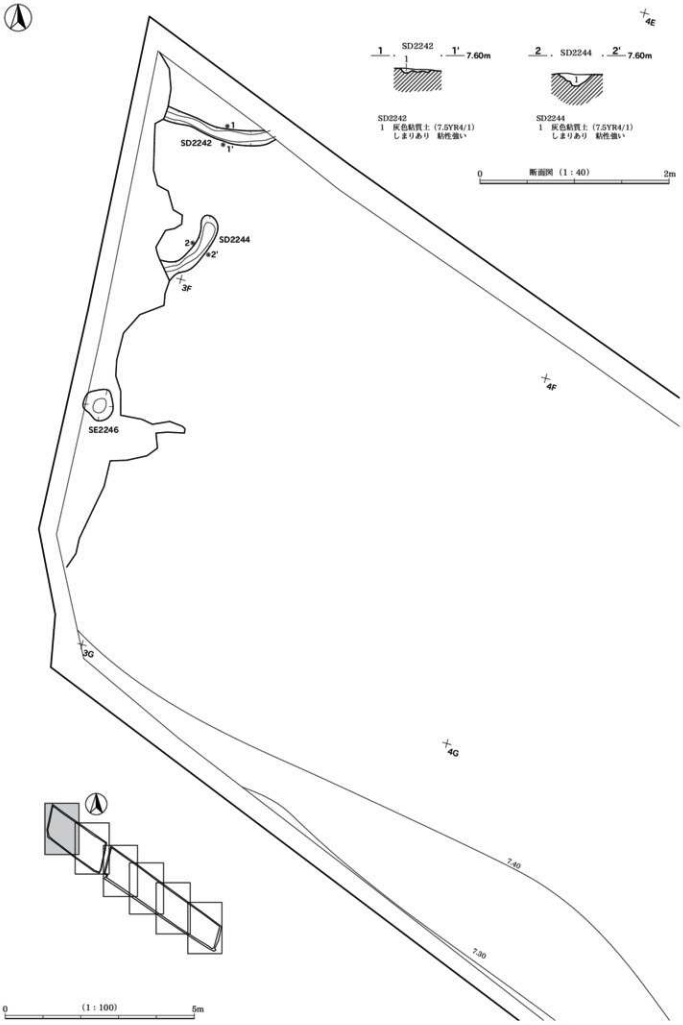
狐宮遺跡の位置と周辺の地形

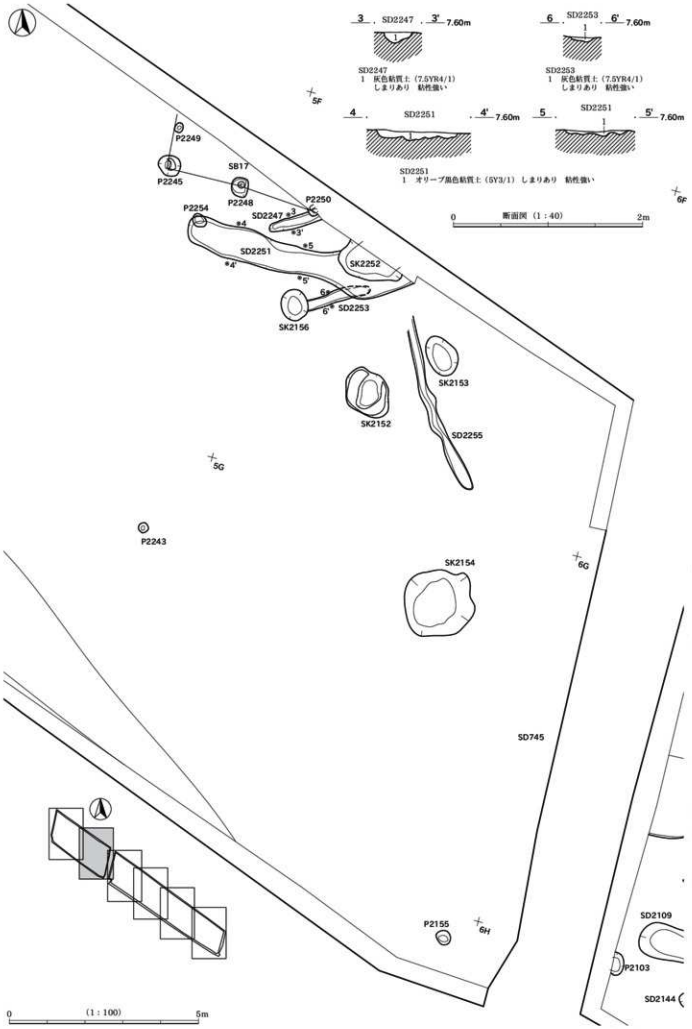


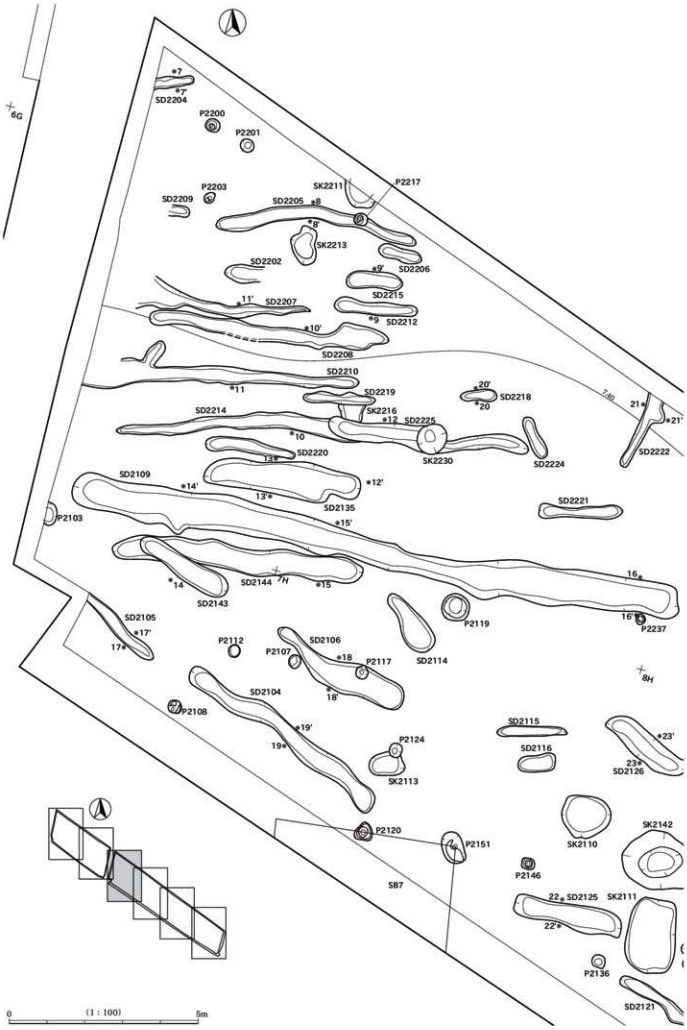
狐宮遺跡遺構全体図

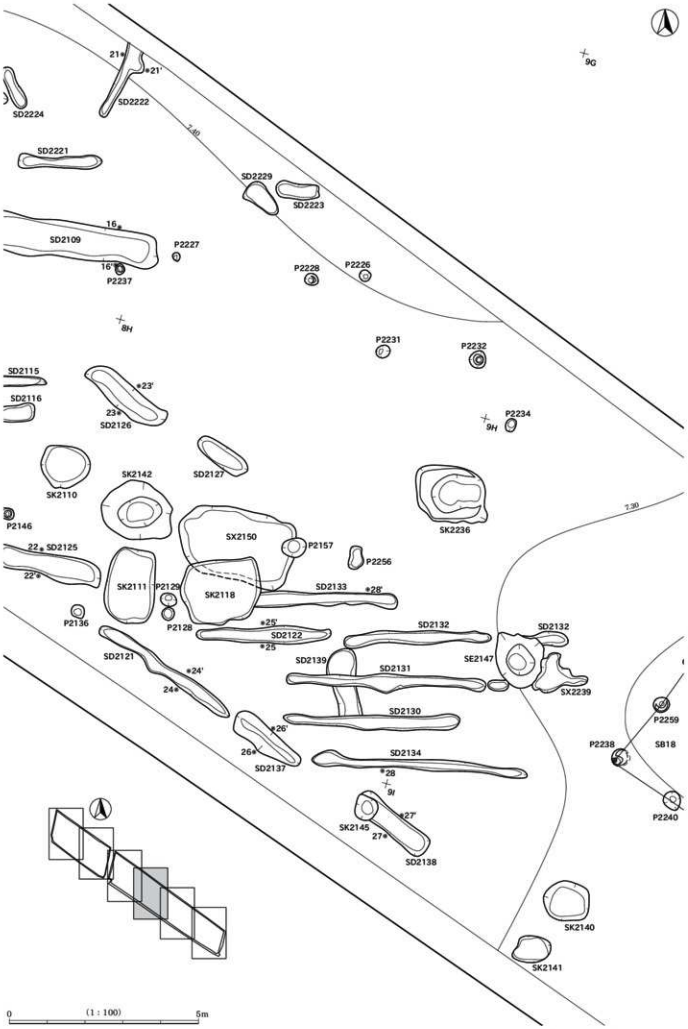

2005年度調査区
2014年度調査区
2009年度調査区
2005年度調査区
2014年度調査区
2005年度調査区
0 (1：500) 25m
0 (1：800) 40m

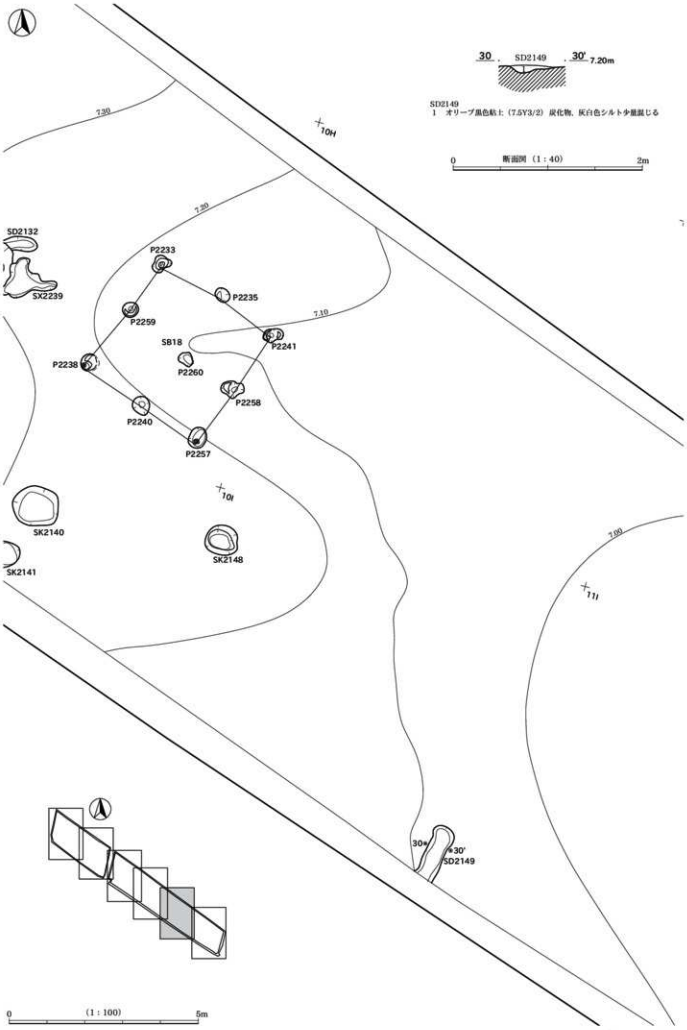

E
2
3
4
F
5
6
7
G
8
9
10
11
H
12
13
I
D
0
(1：300)
15m

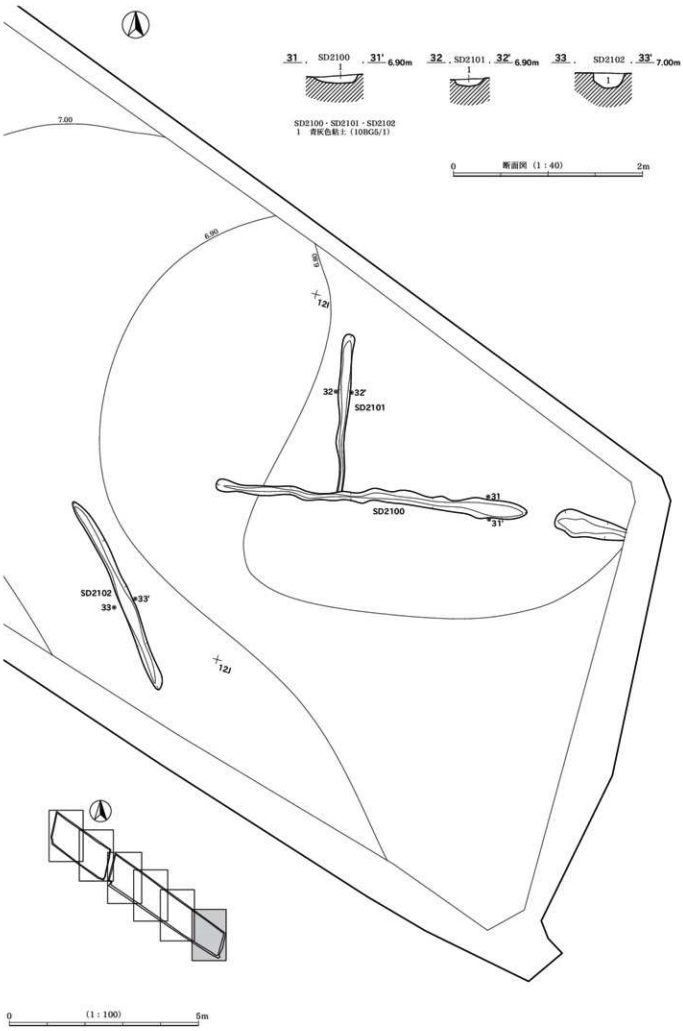

4E
1
SD2242
1'
7.60m
2
SD2244
2'
7.60m
SD2242
1　灰色粘質土（7.5YR4/1）
しまりあり　粘性強い
SD2244
1　灰色粘質土（7.5YR4/1）
しまりあり　粘性強い
0
断面図（1：40）
2m
SD2242
SD2244
3F
4F
SE2246
3G
4G
7.40
7.30
0
（1：100）
5m

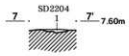

3 . SD2247 . 3' 7.60m
6 . SD2253 . 6' 7.60m
SD2247
1 灰色粘質土（7.5YR4/1）
しまりあり 粘性強い
SD2253
1 灰色粘質土（7.5YR4/1）
しまりあり 粘性強い
4 . SD2251 . 4' 7.60m
5 . SD2251 . 5' 7.60m
SD2251
1 オリーブ黒色粘質土（5Y3/1） しまりあり 粘性強い
断面図（1：40）
0
2m
5F
6F
P2249
P2245
SB17
P2248
P2250
P2254
SD2247
SD2251
SK2252
SK2156
SD2253
SK2153
SK2152
SD2255
5G
P2243
SK2154
6G
SD745
P2155
6H
SD2109
P2103
SD2144
(1：100)
0
5m


6G
7H
8H
SD2204
P2200
P2201
P2203
SD2209
SK2211
P2217
SD2205
SK2213
SD2202
SD2206
SD2207
SD2215
SD2212
SD2208
SD2210
SD2219
SK2216
SD2218
SD2214
SD2225
SK2230
SD2224
SD2222
SD2220
SD2109
SD2135
SD2221
P2103
SD2144
SD2143
P2119
P2237
SD2105
P2112
SD2106
P2107
P2117
SD2114
SD2104
P2108
P2124
SK2113
SD2115
SD2116
SD2126
P2120
P2151
SK2110
SK2142
P2146
S87
SD2125
SK2111
P2136
SD2121
0
(1：100)
5m

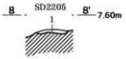

21
21'
SD2222
SD2224
9G
7.40
SD2221
SD2229
SD2223
16
SD2109
P2227
16'
P2237
P2228
P2226
8H
P2231
P2232
SD2115
SD2116
23'
23
SD2126
9H
P2234
SK2142
SD2127
SK2110
SK2236
P2146
7.30
SX2150
P2157
22
SD2125
22'
P2256
SK2111
P2129
SK2118
SD2133
28'
P2136
P2128
25'
SD2122
29
SD2132
SD2132
SD2121
SD2139
SD2131
SE2147
24'
24
SX2239
SD2130
P2259
26'
26
SD2137
SD2134
P2238
SB18
28
9I
27'
SK2145
27
SD2138
P2240
SK2140
SK2141
0
(1：100)
5m


30
SD2149
30'
7.20m
SD2149
1　オリーブ黒色粘土（7.5Y3/2）炭化物、灰白色シルト少量混じる
0
断面図（1：40）
2m
7.30
10H
7.30
SD2132
SX2239
P2233
P2235
P2259
7.10
SB18
P2241
P2238
P2260
P2258
P2240
P2257
10I
SK2140
SK2141
SK2148
7.00
11I
30
30'
SD2149
0
(1：100)
5m

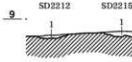

31 . SD2100 . 31' 6.90m
32 . SD2101 . 32' 6.90m
33 . SD2102 . 33' 7.00m
1
SD2100・SD2101・SD2102
1　青灰色粘土（10BG5/1）
0　断面図（1：40）　2m
7.00
6.90
6.90
121
32*
*32'
SD2101
*31
SD2100
*31'
SD2102
33*
*33'
121
0　（1：100）　5m



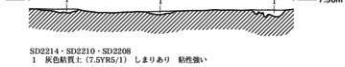
SD2204
1　灰色粘質土（7.5YR4/1）



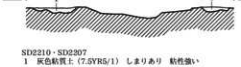
SD2205
1　灰色粘質土（7.5YR4/1）しまりあり　粘性強い



SD2212・SD2215
1　灰色粘質土（7.5YR4/1）しまりあり　粘性強い

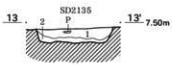


SD2214・SD2210・SD2208
1　灰色粘質土（7.5YR5/1）しまりあり　粘性強い

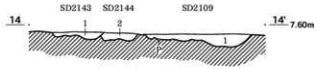


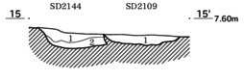
SD2210・SD2207
1　灰色粘質土（7.5YR5/1）しまりあり　粘性強い

SD2225
1　灰色粘質土（5Y4/1）　しまりあり　粘性強い　炭化物粒子含む
2　オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）しまりあり　粘性強い



SD2135
1　褐灰色粘質土（10YR4/1）しまりあり　粘性強い　炭化物やや多く含む
2　褐灰色粘質土（10YR4/2）しまりあり　粘性強い　炭化物ややや多く含む　灰白色シルト混じる

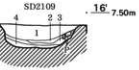




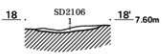
SD2109（14・15）
1　灰色粘質土（5Y4/1）　　灰オリーブシルト少量含む

SD2143
1　灰色粘質土（7.5Y4/1）　　炭化物少量含む

SD2144
1　オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/2）灰オリーブシルト少量含む
2　褐灰色粘質土（7.5YR5/1）　炭化物少量含む



SD2109（16）
1　オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）炭化物含む
2　黒色粘質土（2.5Y2/1）　炭化物含む
3　オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）
4　オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）炭化物多い

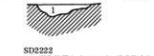


SD2106
1　灰黄色粘質土（2.5Y7/2）黒褐色土との混合土

SD2105
1　灰黄色粘質土（2.5Y7/2）黒褐色土との混合土

SD2104
1　灰黄色粘質土（2.5Y7/2）黒褐色土との混合土

SD2218
1　灰色粘質土（5Y4/1）　炭化物含む
2　灰色粘質土（7.5Y5/1）



SD2222
1　灰色粘質土（5Y4/1）炭化物含む

SD2125
1　暗灰色粘質土（N3/）
　灰オリーブシルト少量混じる
2　灰色粘質土（10Y4/1）

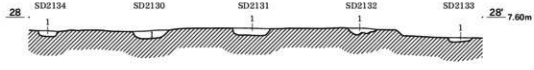
SD2126
1　オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/2）
　灰白色シルト、炭化物少量混じる

SD2137
1　オリーブ黒色粘土（7.5Y3/2）
　炭化物、灰白色シルト少量混じる

SD2121
1　オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）
　灰色シルト混じる

SD2122
1　灰オリーブ粘質土（5Y4/2）

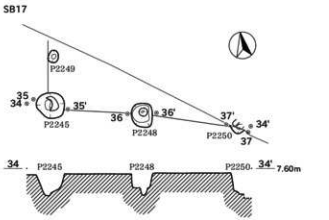
SD2138
1　オリーブ黒色粘土（7.5Y3/2）
　炭化物、灰白色シルト少量混じる

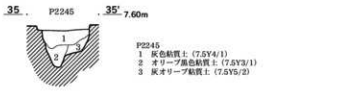


SD2134・SD2130・SD2131
1　灰色粘土（5Y4/1）

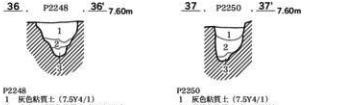
SD2132・SD2133
1　暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）

0　断面図（1：40）　2m



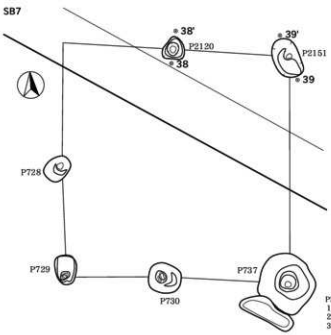


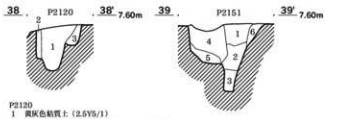
P2245
1 灰色粘質土（7.5Y4/1）
2 オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/1）
3 灰オリーブ粘質土（7.5Y5/2）



P2248
1 灰色粘質土（7.5Y4/1）
2 オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/1）
3 灰色粘質土（7.5Y4/1）

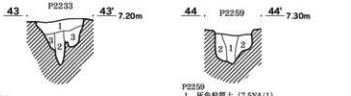
P2250
1 灰色粘質土（7.5Y4/1）
2 黒褐色粘質土（2.5Y3/2）
3 灰オリーブ粘質土（7.5Y5/2）





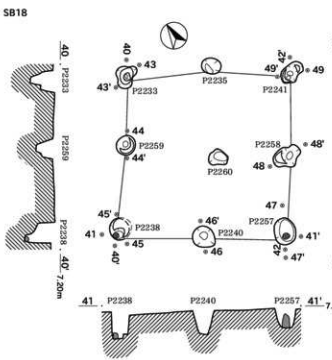
P2120
1 黄灰色粘質土（2.5Y5/1）
2 褐灰色粘質土（10YR6/1）
3 黒褐色粘質土（10YR3/1）

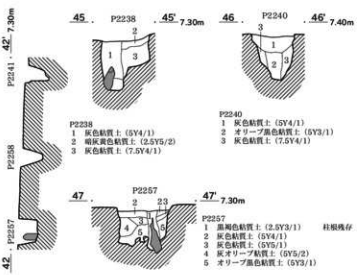
P2151
1 褐灰色粘質土（10YR6/1）　炭化物少量含む
2 褐灰色粘質土（10YR4/1）
3 黒色粘質土（10YR2/1）
4 灰黄褐色粘質土（10YR5/2）
5 黒色粘質土（10YR2/1）
6 黒色粘質土（10YR2/1）　灰色シルトを多く含む



P2233
1 オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/2）
2 オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/1）
3 灰オリーブ粘質土（7.5Y4/2）　黒色粘土ブロック含む

P2259
1 灰色粘質土（7.5Y4/1）
2 灰オリーブ粘質土（7.5Y4/2）　炭化物含む

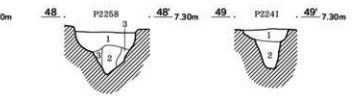




P2238
1 灰色粘質土（5Y4/1）
2 暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）
3 灰色粘質土（7.5Y4/1）

P2240
1 灰色粘質土（5Y4/1）
2 オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）
3 灰色粘質土（7.5Y4/1）

P2257
1 黒褐色粘質土（2.5Y3/1）　柱根残存
2 灰色粘質土（5Y4/1）
3 灰色粘質土（5Y5/1）
4 灰オリーブ粘質土（5Y5/2）
5 オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）

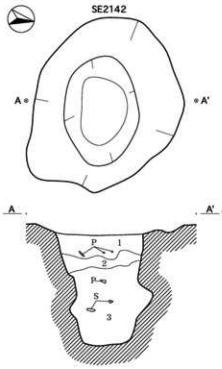


P2258
1 灰色粘質土（7.5Y4/1）
2 オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/1）
3 オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/2）

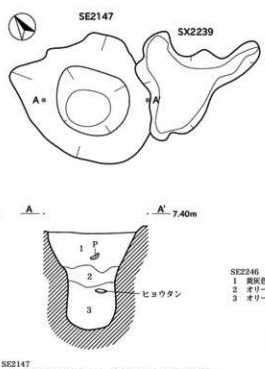
P2241
1 灰色粘質土（5Y4/1）
2 オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）

0　その他（1：80）　4m

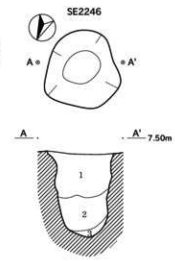
0　断面図（1：40）　2m



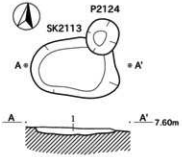
SE2142
1　オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）　炭化物・焼土少量含む
2　黒色粘質土（2.5Y2/1）　黄灰色シルト少量含む
3　黒褐色粘質土（2.5Y3/1）　炭化物・焼土少量含む



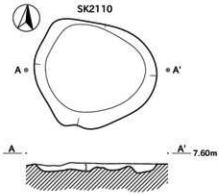
SE2147
1　褐灰色粘質土（10YR5/1）　灰白色シルト、炭化物多く含む
2　黒褐色粘質土（2.5Y3/1）　炭化物少量含む
3　黒色粘質土（10YR2/1）　灰白色シルト少量含む



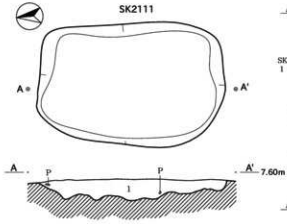
SE2246
1　黄灰色粘質土（2.5Y4/1）　灰白色粘土ブロック含む
2　オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）　炭化物粒子含む
3　オリーブ黒色粘質土（5Y2/2）　腐植物混じる



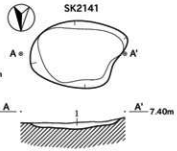
SK2113
1　褐灰色粘質土（10YR6/1）　黒褐色土との混合土
炭化物少量含む



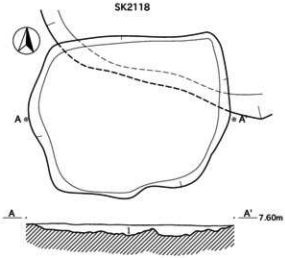
SK2110
1　黄灰色粘質土（2.5Y5/1）　炭化物少量含む



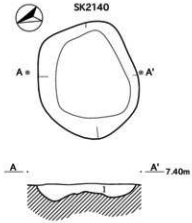
SK2111
1　褐灰色粘質土（7.5YR6/1）



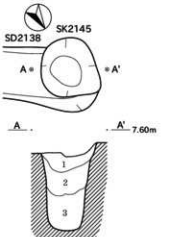
SK2141
1　褐灰色粘質土（10YR6/1）



SK2118
1　オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/1）　炭化物少量含む

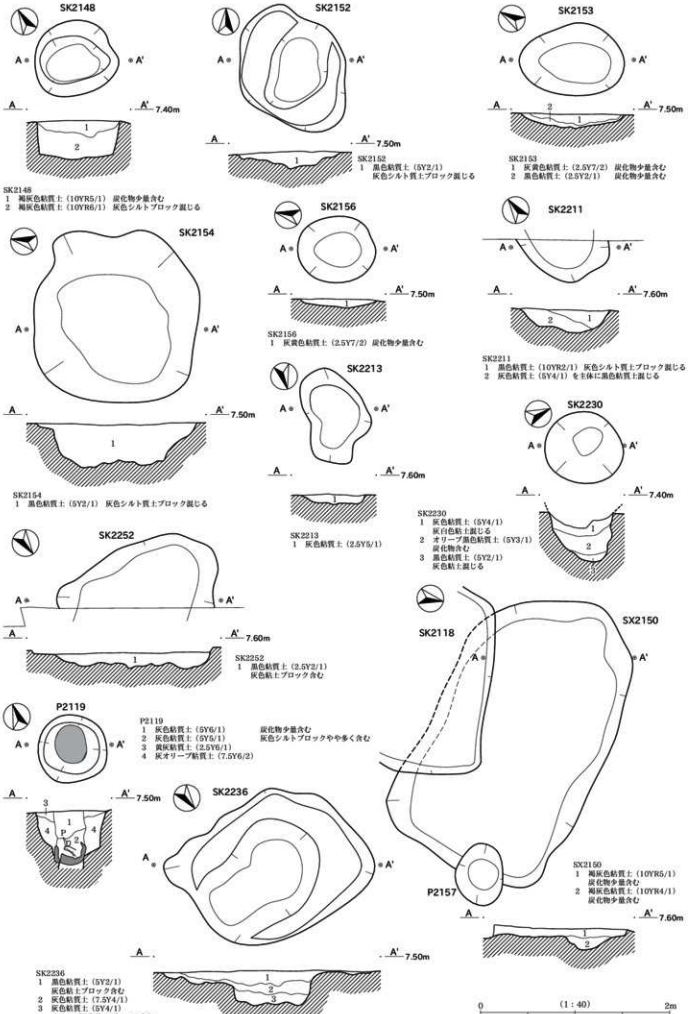


SK2140
1　褐灰色粘質土（10YR6/1）

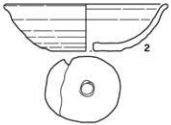


SK2145
1　褐灰色（10YR5/1）
2　褐灰色粘質土（10YR4/1）
3　黄灰色粘質土（2.5Y4/1）

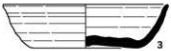
0　（1：40）　2m


SK2148
A
A'
7.40m
1
2
SK2148
1　褐灰色粘質土（10YR5/1）炭化物少量含む
2　褐灰色粘質土（10YR6/1）灰色シルトブロック混じる
SK2152
7.50m
1
SK2152
1　黒色粘質土（5Y2/1）
灰色シルト質土ブロック混じる
SK2153
7.50m
2
1
SK2153
1　灰黄色粘質土（2.5Y7/2）炭化物少量含む
2　黒色粘質土（2.5Y2/1）炭化物少量含む
SK2154
7.50m
1
SK2154
1　黒色粘質土（5Y2/1）灰色シルト質土ブロック混じる
SK2156
7.50m
SK2156
1　灰黄色粘質土（2.5Y7/2）炭化物少量含む
SK2211
7.60m
2
1
SK2211
1　黒色粘質土（10YR2/1）灰色シルト質土ブロック混じる
2　灰色粘質土（5Y4/1）を主体に黒色粘質土混じる
SK2213
7.60m
SK2213
1　灰色粘質土（2.5Y5/1）
SK2230
7.40m
1
2
3
SK2230
1　灰色粘質土（5Y4/1）
灰白色粘土混じる
2　オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）
炭化物含む
3　黒色粘質土（5Y2/1）
灰色粘土混じる
SK2252
7.60m
1
SK2252
1　黒色粘質土（2.5Y2/1）
灰色粘土ブロック含む
SK2118
SX2150
P2119
P2119
1　灰色粘質土（5Y6/1）
2　灰色粘質土（5Y5/1）
3　黒灰粘質土（2.5Y6/1）
4　灰オリーブ粘質土（7.5Y6/2）
炭化物少量含む
灰色シルトブロックやや多く含む
7.50m
3
1
4
4
2
SK2236
P2157
SX2150
1　褐灰色粘質土（10YR5/1）
炭化物少量含む
2　褐灰色粘質土（10YR4/1）
炭化物少量含む
7.60m
1
2
7.50m
SK2236
1　黒色粘質土（5Y2/1）
灰色粘土ブロック含む
2　灰色粘質土（7.5Y4/1）
3　灰色粘質土（5Y4/1）
オリーブ黒色粘土ブロック含む
1
2
3
0
(1：40)
2m

SE2142（1・2）



SE2147（3）

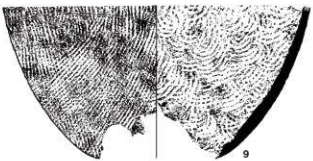


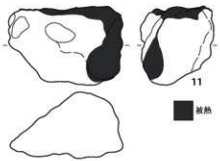
SK2118（4）

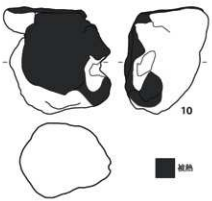
SK2148（8）

SK2145（5～7）

P2119（9～11）



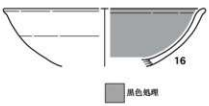




P2146（12）

SX2150（13・14）

SD2109（15～17）



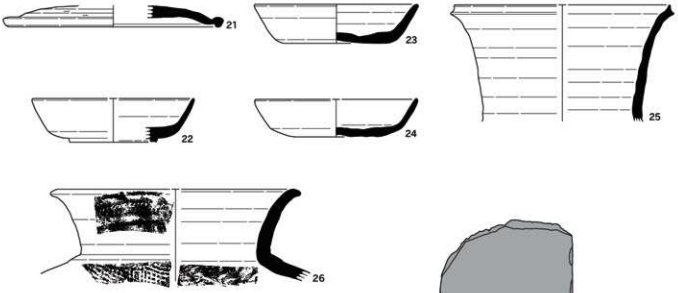
SD2132（18）

SD2135（19・20）

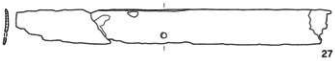
0　(9)　25cm (1:5)

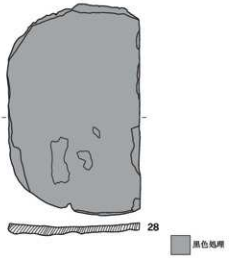
0　(その他)　15cm (1:3)

包含層（21～26）

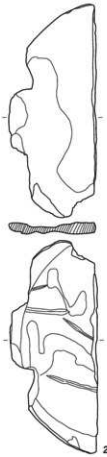


木製品　SE2142（27・28）



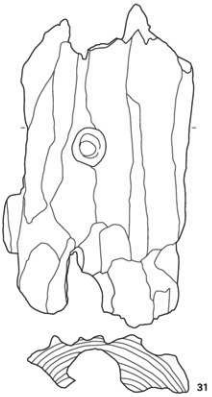


SE2147（29）



SB18-P2238（30）

SB18-P2257（31）



0　15cm（1:3）

調査区全景（上空南西から）

調査区全景（上空真上から）

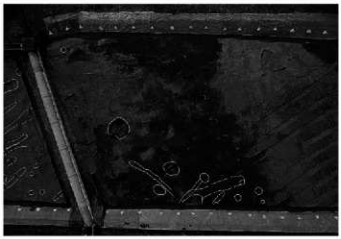
6 ～ 10G・H グリッド　遺構検出状況（上空真上から）

SB17　完掘（北東から）

基本層序 4 I 25　グリッド（南から）

SK2145　須恵器小型短頸壺（5）　出土状況（北から）

SK2145　出土土器



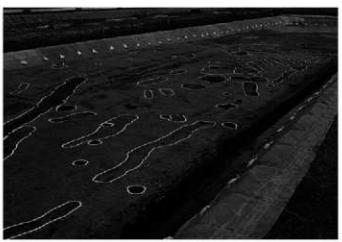
SB17 周辺　遺構完掘（上空真上から）

SB17　P2245　断面（南から）

SB17　P2248　完掘（南から）

SB17　P2250　断面（北東から）

SB17　SD2251　断面（4-4'）（西から）



SB7　北辺柱列周辺　完掘（西から）

SB7　P2151　断面（東から）

SB7　P2151　完掘（西から）

SB7　P2120　断面（東から）

SB18　完掘（北東から）

SB18　P2233　断面（北から）

SB18　P2238　断面（東から）

SB18　P2238　完掘（東から）

SB18　P2240　断面（東から）

SB18　P2241　断面（北から）

SB18　P2257　断面（東から）

SB18　P2258　断面（南から）

SB18　P2259　断面（北西から）

SE2142　断面（東から）

SE2142　礫・瓦葺出土状況（東から）

SE2147　断面（南西から）

SE2147　断面（北東から）

SE2147　遺物出土状況（西から）

SE2246　断面（北から）

SK2110　断面（南から）

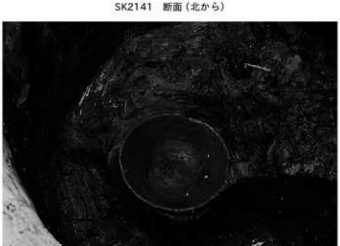
SK2111　断面（西から）

SK2118　断面（南から）

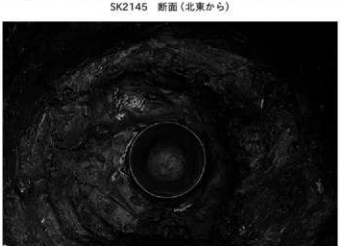
SK2140　断面（西から）

SK2141　断面（北から）

SK2145　断面（北東から）



SK2145　土師器椀（7）　出土状況（北東から）



SK2145　土師器椀（6）　出土状況（北から）

SK2148　断面（南西から）

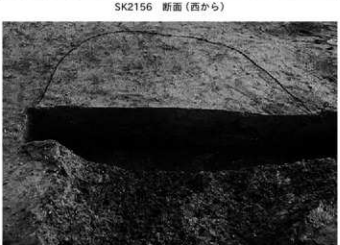
SK2152　断面（南から）

SK2153　断面（南西から）

SK2154　断面（西から）

SK2156　断面（西から）

SK2211　断面（南西から）



SK2213　断面（北から）

SK2230　断面（東から）

SK2236　断面（北東から）

P2119　断面（南西から）

P2119　遺物出土状況（南から）

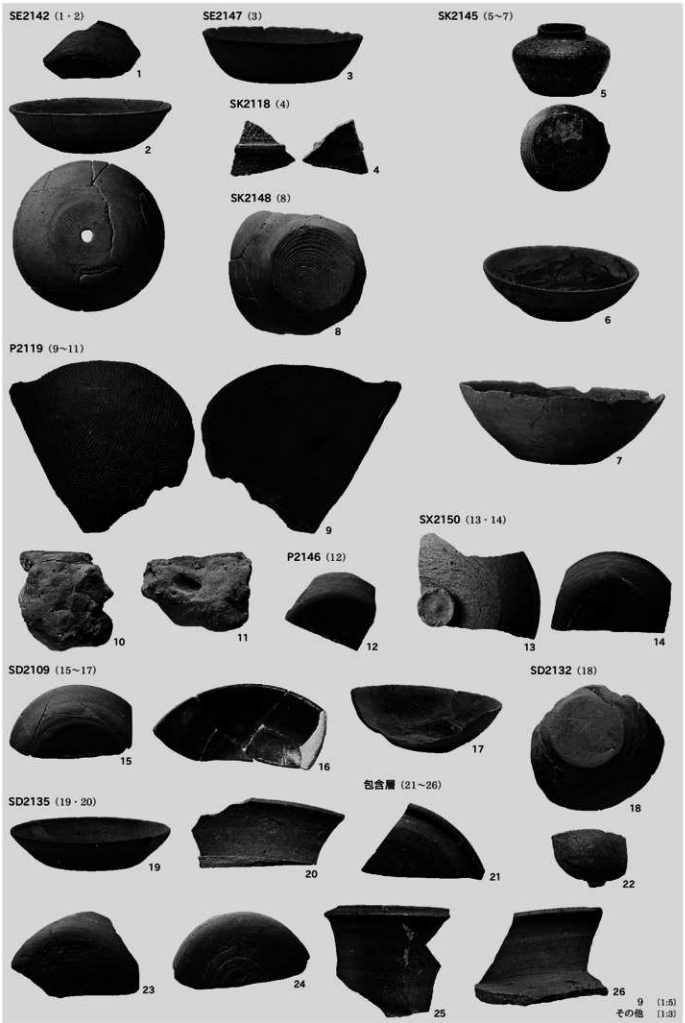
SX2150　遺物出土状況（南から）

SD2208　断面（東から）

SD2109　断面（東から）

SD2135　断面（南西から）

SD2135　遺物出土状況（東から）


SE2142（1・2）
1
2
SE2147（3）
3
SK2118（4）
4
SK2148（8）
8
SK2145（5～7）
5
6
7
P2119（9～11）
9
10
11
P2146（12）
12
SX2150（13・14）
13
14
SD2109（15～17）
15
16
17
SD2132（18）
18
包含層（21～26）
SD2135（19・20）
19
20
21
22
23
24
25
26
9　（1:5）
その他　（1:3）

SE2142（27・28）

27

28

SE2147（29）

29

SB18・P2238（30）

30

SB18・P2257（31）

31

9　須恵器　甕内面　漆付着

7　土師器無台椀　体部墨書「☆」か

18　土師器無台椀　底部刻書「林」

27～31　(1:3)

報告書抄録

ふりがな	きつのみやいせき　さん
書名	狐宮遺跡Ⅲ
副書名	一般国道 253 号　上越三和道路関係発掘調査報告書
巻次	Ⅻ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 268 集
編著者名	飯坂盛泰（埋文事業団）
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒956-0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1　TEL　0250（25）3981
発行年月日	2016（平成 28）年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
狐宮遺跡 （きつのみや）	新潟県上越市門田新田字江向（いりがたしんでんあざえむき）20 番地 5 ほか	152269	1475	37 度 7 分 44 秒	138 度 16 分 50 秒	20140916～ 20141121	1,810㎡	一般国道 253 号 上越三和道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
狐宮遺跡	集落	平安時代（9 世紀中葉）	掘立柱建物 3 棟、井戸 3 基、土坑 18 基、ピット 41 基、溝 53 条、性格不明遺構 2 基	須恵器、土師器、木製品（曲物・柱根）	

要約	高田平野中央部、関川右岸の標高約 8m の自然堤防上に所在し、旧状は水田であった。調査の結果、平安時代の遺構・遺物を検出した。掘立柱建物は小規模で、建物周辺で井戸、畑作溝と考えられる平行する溝群を検出した。土坑で、地鎮を行ったと考えられる土器埋納遺構があった。遺跡は 9 世紀に自然堤防上に形成し、農業を基盤に営まれた一般集落である。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 268 集
一般国道 253 号　上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅻ

狐宮遺跡Ⅲ

2016(平成28)年 3 月 22 日印刷
2016(平成28)年 3 月 25 日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市中央区新光町 4 番地 1
電話　025（285）5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社ハイングラフ
〒950-2022　新潟市西区小針 1 丁目 11 番 8 号
電話　025（233）0321